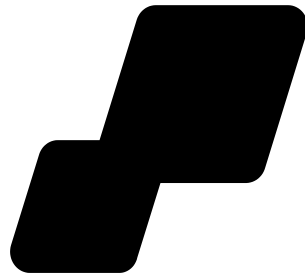


令和5年度
(2023年度)

入 学 者 選 拔 要 項



SHIGA UNIVERSITY

滋 賀 大 学

求める学生像（アドミッション・ポリシー）

【教育学部】

私たちの学部では、次のような人を求めています。

- 変化の激しい現代において、よりよい社会の創造に貢献できる教師をめざす人
- 学校教育に高い関心を持ち、教育の諸課題に自ら積極的に取り組む意欲や熱意のある人
- 教師をめざすために必要な幅広い基礎的知識、論理的思考力・コミュニケーション能力、豊かな感受性、他者に共感する心を備えた人

【経済学部】

滋賀大学経済学部は、学部の教育理念・目標に基づき、次のような人を求めています。

- 経済学部で学ぶために必要な基礎的知識、論理的思考力と表現力、コミュニケーション能力をもつ人
- 経済学部における知の探求と創造に意欲と能力のある人
- 意識・知識・見識を身につけた専門職業人を目指す人
- 国際社会・地域社会の課題の発見とその解決に主体的に取り組む意欲のある人

【データサイエンス学部】

データサイエンスの応用領域は、自然科学分野ばかりではなく、むしろ人文・社会科学系分野が多く含まれるため、文理両方の素養を身に付ける必要があります。したがって、本学部では理系文系を問わず、次のような資質をもつ人の入学を求めています。

- 高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、バランスよく、文・理の基礎的知識を身に付けてきた、潜在性豊かな人
- コミュニケーション能力を有し、多様な人々と協働して、理想の未来に向けた価値創造に貢献したい人
- 物事を筋道立てて考えることができ、人間社会や自然の現象を数理的に分析することに関心のある人
- 情報ネットワーク、プログラミング、コンピュータグラフィックス（視覚化）などに関心がある人

【TOPICS】

- 経済学部では、令和5年度から学科の再編を予定しています。このことに関しては、次頁「経済学部の改組計画について（お知らせ）」を参照ください。

- 以下の選抜の出願はインターネット出願のみとなります。

- ・ 一般選抜
- ・ 学校推薦型選抜
- ・ 総合型選抜
- ・ 社会人選抜

災害の発生や感染症の蔓延などにより、入学試験を実施するにあたり安全な受験環境を確保するための適切な措置を講じる必要が生じた場合には、別途、本学ホームページ等で受験者に告知しますので、本学の指示に従ってください。

特に令和5年度入学者選抜では、新型コロナウイルス感染症に関連して選抜日程・選抜方法等に変更が生じる可能性がありますので、本学ホームページを確認してください。

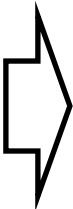
経済学部改組計画について（お知らせ）

滋賀大学経済学部では、令和5年4月から学科の再編を計画しています。

なお、これらの計画は、法令等の規定に基づき必要な手続を経て確定するものであり、変更されることがあります。（変更があった場合は、本学ホームページ等で通知します。）

出願にあたっては、学校推薦型選抜、私費外国人留学生選抜、総合型選抜、一般選抜の各学生募集要項で必ず確認してください。（募集要項の発表時期については49頁参照）

（1）改組計画〈予定〉

改組前（令和4年度）			改組後（令和5年度）	
経済学部（昼間主コース）	410 名		経済学部（昼間主コース）	
経済学科	165 名		総 合 経 済 学 科	410 名
ファイナンス学科	55 名			
企業経営学科	75 名			
会計情報学科	50 名			
社会システム学科	65 名			
経済学部（夜間主コース）	50 名		経済学部（夜間主コース）	
経済学科	11 名		総 合 経 済 学 科	50 名
ファイナンス学科	9 名			
企業経営学科	10 名			
会計情報学科	9 名			
社会システム学科	11 名			

I	募集人員	1
II	募集方法	2
III	一般選抜	
	1. 実施方式・日程・合格発表	8
	2. 他大学及び本学学部間の併願	8
	3. 出願資格	8
	4. 出願期間	9
	5. 入学者選抜方法等	9
	6. 2段階選抜	9
	7. 個別学力検査等の特別追試験	9
別表 1	入学者選抜方法等（一般選抜）	11
別表 2	入学者選抜の実施教科・科目等について	12
別表 3	教育学部一般選抜「前期日程」で課する実技検査の概要	20
別表 4	一般選抜個別学力検査等の実施日程	21
別表 5	合格者発表	21
別表 6	大学入学共通テスト及び個別学力検査等配点表	22
別表 7	経済学部一般選抜制度の概要	24
IV	学校推薦型選抜等	
	1. 学校推薦型選抜	26
	2. 総合型選抜	26
	3. 帰国生徒選抜	26
	4. 社会人選抜	26
	5. 私費外国人留学生選抜	26
別表 8	入学者選抜方法等（学校推薦型選抜等）	27
別表 9	学校推薦型選抜等の実施日程	28
別表 10-1	学校推薦型選抜 教育学部	32
10-2	学校推薦型選抜 経済学部	33
別表 11-1	総合型選抜 教育学部	34
11-2	総合型選抜 経済学部 総合型選抜（昼間主コース）【課題図書型】	35
11-3	総合型選抜 経済学部 総合型選抜（昼間主コース）【資格・検定型】	36
11-4	総合型選抜 経済学部 総合型選抜（夜間主コース）	38
11-5	総合型選抜 データサイエンス学部 総合型選抜Ⅰ	39
11-6	総合型選抜 データサイエンス学部 総合型選抜Ⅱ	40
11-7	総合型選抜 データサイエンス学部 総合型選抜Ⅲ	41
11-8	総合型選抜 最終選考について 経済学部及びデータサイエンス学部	42
別表 12	帰国生徒選抜 教育学部	43
別表 13	社会人選抜 教育学部	44
別表 14-1	私費外国人留学生選抜 教育学部	45
14-2	私費外国人留学生選抜 経済学部	46
別表 15	教育学部学校推薦型選抜（一般）・帰国生徒選抜・社会人選抜で課する実技検査の概要	47
V	受験上及び修学上の配慮に関する事前相談	48
VI	入学料・授業料について	48
VII	入学試験情報の開示について	48
VIII	学生募集要項の発表及び請求方法	49
	アドミッション・ポリシー（学生受け入れ方針）	51
	学部案内	58
付表	令和4年度入学者選抜資料	70
	問い合わせ先、入試情報サービス	巻末

I 募集人員

学部	課 程 ・ 学 科		入学定員	一般選抜		学 校 推 薦 型 選 抜	総合型 選 抜	社会人 選 抜	帰国生徒 選 抜	私費外国人 留 学 生 選 抜
				前期日程	後期日程					
教育 学部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程		230	134	24	51	21	若干名	若干名	若干名
	学 部 計		230	134	24	51	21	若干名	若干名	若干名
経 済 学 部	昼間主 コース	総 合 経 済 学 科	410	172	150	60	18	――	――	10
	夜間主 コース	総 合 経 済 学 科	50	――	――	――	50	――	――	――
	学 部 計		460	172	150	60	68	――	――	10
デー タサイ エンス 学部	データサイエンス学科		100	50	20	――	30	――	――	――
	学 部 計		100	50	20	――	30	――	――	――
合 計			790	356	194	111	119	若干名	若干名	10

※夜間主コース（フレックス制）は、自己のキャリア形成プラン・ライフプランに応じて、昼夜（1日7時限）のいずれの時間帯の授業でも履修が可能です。

Ⅱ 募 集 方 法

教 育 学 部

1. 一般選抜「前期日程」では、下表のとおり、文系型・理系型・面接型・実技型の4つの受験型に分けて募集します。

	課程	受験型	個別学力検査の教科等	募集人員	所属コース・専攻・専修
前 期 日 程	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	文系型	外国語・国語	71 名	1 年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。
		理系型	外国語・数学	39 名	(各コース・専攻・専修の概要は「学部案内」のうち 59 頁からの「教育学部の 3. コース 専攻・専修の紹介」を参照してください)
		面接型	外国語・ グループ面接(障害児教育)	7 名	障害児教育コース 障害児教育専攻に所属します。
		実技型	外国語・実技検査(音楽)	5 名	初等教育コース 初等教科専攻 音楽専修 もしくは、中等教育コース 音楽専攻に 所属します。
			外国語・実技検査(美術)	5 名	初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専修 もしくは、中等教育コース 美術専攻に 所属します。
			外国語・ 実技検査(保健体育)	7 名	初等教育コース 初等教科専攻 体育専修 もしくは、中等教育コース 保健体育専攻に 所属します。

「実技型」の初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1 年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。

2. 一般選抜「後期日程」では、下表のとおり募集します。

	課 程	個別学力検査の教科等	募集人員	所属コース・専攻・専修
後 期 日 程	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	小 論 文	24 名	1 年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。 (各コース・専攻・専修の概要は「学部案内」のうち 59 頁からの「教育学部の 3. コース 専攻・専修の紹介」を参照してください)

3. 一般選抜の合格者の決定は、試験ごとの募集人員に基づいて行います。なお、総合点が満点の50%未満の者は不合格とする場合があります。

4. 学校推薦型選抜では、下表のとおり、一般推薦・地域推薦に分けて募集します。

一般推薦はさらに区分Aと区分Bとに分かれます。

ア. 地域推薦は地域枠として設けられた区分です。出願要件等は 32 頁を参照してください。

イ. 一般推薦、地域推薦及び総合型選抜は、出願要件を満たせば併願が可能です。合格者の判定方法は 32 頁の「選抜方法等」を参照してください。

ウ. 一般推薦の区分Bは、高等学校の工業・農業に関する学科を卒業見込みの者、又は総合学科において工業・農業に関する科目を 20 単位以上履修し卒業見込みの者で、技術及び情報に対する高い勉学の意欲を有し、技術の教員または小学校の教員を目指す者が出願することができます。

課程	募 集 区 分	一 般 推 薦		地域推薦
		区分A	区分B	
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	初等教育コース 教育文化専攻	3 名		10 名
	初等教育コース 教育心理実践専攻	2 名		
	初等教育コース 幼児教育専攻	3 名		
	初等教育コース 国際理解教育専攻	2 名		
	初等教育コース 環境教育専攻	3 名		
	初等教育コース 初等教科専攻 国語専修 中等教育コース 国語専攻	2 名		
	初等教育コース 初等教科専攻 社会専修 中等教育コース 社会専攻	3 名		
	初等教育コース 初等教科専攻 算数専修 中等教育コース 数学専攻	2 名		
	初等教育コース 初等理科専攻 中等教育コース 理科専攻	3 名		
	初等教育コース 初等教科専攻 音楽専修 中等教育コース 音楽専攻	2 名		
	初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専修 中等教育コース 美術専攻	2 名		
	初等教育コース 初等教科専攻 体育専修 中等教育コース 保健体育専攻	2 名		
	初等教育コース 初等教科専攻 情報・技術専修 中等教育コース 情報・技術専攻	2 名	2 名	
	初等教育コース 初等教科専攻 家庭専修 中等教育コース 家庭専攻	3 名		
	初等教育コース 初等英語専攻 中等教育コース 英語専攻	2 名		
	障害児教育コース 障害児教育専攻	3 名		

・一般推薦では、上記の募集区分ごとに募集し、その専攻・専修に所属します。

・地域推薦は、出願時に申請した募集区分の専攻・専修に所属します。

・初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている募集区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1 年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。

5. 一般選抜「前期日程」の募集人員には、帰国生徒選抜による募集人員（若干名）、社会人選抜による募集人員（若干名）を含みます。

6. 総合型選抜では、下表のとおり募集します。なお、一般推薦、地域推薦及び総合型選抜は、出願要件を満たせば併願が可能です。合格者の判定方法は 34 頁の「選抜方法等」を参照してください。

	募集人員	備 考
総合型選抜	21 名	大学入学共通テストは課しません。 <第 1 次選抜> 大学教員による講義を行い、小論文を課します。 <第 2 次選抜> 第 1 次選抜の通過者に対して、課題図書の内容に関するポスター発表（質疑応答を含む）を課します。

- ・所属コース・専攻・専修は、1 年次春学期終了時までに本人の希望と入学後の成績等により決定します。（各コース・専攻・専修の概要は「学部案内」のうち 59 頁からの「教育学部の 3. コース 専攻・専修の紹介」を参照してください）

7. 総合型選抜の合格者の決定は、募集人員に基づいて行います。

なお、各々の選抜において総合点が満点の 50%未満の者は不合格とする場合があります。

8. 一般推薦、地域推薦及び総合型選抜の合格者が募集人員に満たない場合、欠員分は一般選抜「前期日程」の募集人員に加えます。

経済学部

1. 一般選抜（昼間主コース）の募集人員は、下表のとおり国語・外国語選択類型と数学・外国語選択類型の二つの選択類型に分けて募集します。

昼間主コース	学 科	教科の選択類型	募 集 人 員
	総 合 経 済 学 科	国語・外国語	前期 86 名 後期 75 名
		数学・外国語	前期 86 名 後期 75 名

※ 経済学部一般選抜（昼間主コース）の「前期日程」「後期日程」において、大学入学共通テストの受験教科・科目により A 方式（3 教科 3 科目）、B 方式（5 教科 7 科目又は 6 教科 7 科目）の 2 つの採点方式を併用した総合順位方式を導入しています。

大学入学共通テストの受験教科・科目により、A 方式のみが適用されるか、あるいは、A 方式と B 方式の両方が適用されるかが、自動的に決定されますので、出願時に A 方式、B 方式のどちらか一方の採点方式を選択する必要はありません。詳しくは 24、25 頁を参照してください。

2. 学校推薦型選抜の募集人員は、下表のとおり A 推薦・B 推薦に区分し募集します。

昼間主コース	学 科	募集人員	区 分	備 考
	総 合 経 済 学 科	60 名	A 推薦 40 名	高等学校（特別支援学校の高等部及び中等教育学校の後期課程並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設を含む。以下同じ）を令和 5 年 3 月卒業（修了）見込みの者
			B 推薦 20 名	高等学校設置基準（平成 16 年文部科学省令第 20 号）第 6 条第 2 項に規定する「商業に関する学科」、「情報に関する学科」及び「その他専門教育を施す学科」として適当な規模及び内容があると認められる学科」又は同条第 3 項に規定する「総合学科」を令和 5 年 3 月卒業見込みの者 ただし、「その他専門教育を施す学科」として適当な規模及び内容があると認められる学科」及び「総合学科」にあつては商業又は情報に関する教科・科目を合わせて 20 単位以上修得（見込みを含む）した者 〔33 頁参照〕

※ 学校推薦型選抜の入学手続き者が A 推薦、B 推薦それぞれ全体の募集人員に満たない場合、欠員分は一般選抜「前期日程」の募集人員に加えます。

3. 総合型選抜（昼間主コース）の募集人員は、下表のとおり課題図書型、資格・検定型に区分し募集します。

昼間主コース	学 科	募集人員	区 分	備 考
	総 合 経 済 学 科	18 名	課題図書型	あわせて 18 名
			資格・検定型	

※ 総合型選抜（昼間主コース）課題図書型、資格・検定型の入学手続き者合計が募集人員 18 名に満たない場合、欠員分は一般選抜「前期日程」の募集人員に加えます。

4. 総合型選抜（夜間主コース）の募集人員は、下表のとおり第1種及び第2種に区分し募集します。

夜 間 主 コ ー ス	学 科	募集人員	区 分
	総 合 経 済 学 科	50 名	第 1 種 10 名
			第 2 種 40 名

※ 夜間主コースは、生涯教育を推進し、勤労者に高等教育の機会を与え、社会人の多様なニーズに応えるため、フレックス制を導入しております。自己のキャリア形成プラン・ライフプランに応じて、昼夜（1日7時限）のいずれの時間帯の授業でも履修が可能です。

データサイエンス学部

1. 一般選抜「前期日程」では、下表のとおり募集します。

前期日程	学 科	個別学力検査の教科等	募集人員
	データサイエンス学科	外 国 語 数 学	50 名

2. 一般選抜「後期日程」では、下表のとおり募集します。

後期日程	学 科	個別学力検査の教科等	募集人員
	データサイエンス学科	外 国 語 総合問題	20 名

3. 総合型選抜は、下表のとおり募集します。なお、全ての区分に併願することができます。

学 科	募集人員	区 分	備 考
データサイエンス学科	15 名	総合型選抜Ⅰ	データサイエンス講座の受講を必須とします。出願書類、課題レポート及び取得資格による第1次選考合格者に対して、個人面接による第2次選考を行います。第2次選考合格者のうち本学部が指定した令和5年度大学入学共通テスト（900点満点）の合計得点が550点以上の者を最終合格者とします。
	15 名	総合型選抜Ⅱ	MOOC (Massive Open Online Courses) 教材の視聴を必須とします。出願書類、小論文及び取得資格による第1次選考合格者に対して、個人面接による第2次選考を行います。第2次選考合格者のうち本学部が指定した令和5年度大学入学共通テスト（900点満点）の合計得点が550点以上の者を最終合格者とします。
	若干名	総合型選抜Ⅲ	全国規模で開催されるデータ分析やプログラミングに関するコンペティション等への参加経験者を対象とします。出願書類及び取得資格による第1次選考合格者に対して、個人面接による第2次選考を行います。第2次選考合格者のうち本学部が指定した令和5年度大学入学共通テスト（900点満点）の合計得点が550点以上の者を最終合格者とします。

※ 総合型選抜の入学手続き者が募集人員（合計人数）に満たない場合、欠員分は一般選抜「前期日程」の募集人員に加えます。

Ⅲ 一般選抜

1. 実施方式・日程・合格発表

本学は、教育学部、経済学部及びデータサイエンス学部ともに、分離・分割方式「前期日程」及び「後期日程」により個別学力検査等を実施します。〔21 頁参照〕

2. 他大学及び本学学部間の併願

令和5年度大学入学選抜は、国公立大学・学部（※独自日程で入学選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）にあつては「分離・分割方式」により実施されるので、志願者は「前期日程」の大学・学部から1つ、「後期日程」の大学・学部から1つの合計2つの大学・学部に出願することができます。

（※公立大学協会ホームページ（<https://www.kodaikyo.org/?cat=26> 参照）

従つて、試験日程グループ間の併願については、「前期－前期」、「後期－後期」の併願はできません。

本学の「前期日程」に出願する者は、本学の「後期日程」もしくは他の国公立大学の「後期日程」に出願できます。本学の「後期日程」に出願する者は、本学の「前期日程」もしくは他の国公立大学の「前期日程」に出願することができます。

3. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、本学が指定する令和5年度大学入学共通テストの教科・科目を受験した者です。

ただし、学校推薦型選抜、総合型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜における出願資格は、別に定めています。

〔26～46 頁参照〕

- (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を卒業した者、及び令和5年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、及び令和5年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者のうち次の各号の一に該当する者及び令和5年3月31日までにこれに該当する見込みの者
 - ア. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - イ. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ウ. 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上で、かつ課程の修了に必要な総授業時間数が2,590時間以上であること）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - エ. 文部科学大臣の指定した者
 - オ. 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）
 - カ. 高等学校卒業程度認定審査規則（令和4年文部科学省令第18号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定審査に合格した者
 - キ. 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和5年3月31日までに18歳に達するもの（（注）参照）

（注）出願資格の（3）のキ. により出願を希望する者は、事前に資格認定の審査を行います。「入学資格認定審査申請要領」を本学入試課あてに請求し、「入学資格認定申請書」に次表の区分による提出書類を添え、下記の期間内に申請してください。持参の場合は、各最終日の9時から16時まで受け付けます。

第1次 令和4年8月22日(月)～8月26日(金) 16時必着

第2次 令和5年1月16日(月)～1月18日(水) 16時必着

●提出書類一覧（入学資格審査）

区 分	提 出 書 類
3年以上の教育施設での学習歴を有する者	①調査書又は成績証明書及び最終出身学校等の卒業（見込）証明書 ②カリキュラム等当該教育施設の教育課程が確認できる書類
社会での実務経験等を有する者	①大学入学資格があるとする理由書 ②最終出身学校等の卒業（修了）証明書 ③実務経験の期間及び内容を証明する書類
日本の大学で科目等履修生として在籍中又は在籍した者	①最終出身学校等の卒業（修了）証明書 ②科目等履修生の在学（在籍）証明書 ③成績証明書又は学習歴を証明する書類
その他、高等学校卒業と同等以上の学力を有すると認められる者	①大学入学資格があるとする理由書 ②最終出身学校等の卒業（修了）証明書 ③学習歴を証明する書類

なお、上記提出書類のほか「その他本学が必要とする書類」を求めることがあります。
また、「入学資格認定審査申請要領」は、滋賀大学ホームページから入手することもできます。

「入学案内」（<https://www.shiga-u.ac.jp/admission/>）＞「受験案内」＞「出願方法・出願資格」

4. 出 願 期 間

令和5年1月23日(月)～令和5年2月3日(金)

5. 入学者選抜方法等

入学者は、令和5年度大学入学共通テスト並びに本学が実施する個別学力検査、実技検査等の成績、及び出願書類を総合して判定し、選抜します。

この場合、経済学部を選抜は、「入学者選抜の実施教科・科目等について」〔14, 15 頁参照〕に記載のA方式又はB方式により行います。大学入学共通テストを5教科7科目、又は6教科7科目受験した者はA方式、B方式の両方により判定を行い、上位の順位を採用します。詳しくは「経済学部一般選抜制度の概要」〔24, 25 頁〕を参照してください。

また、本学は前年度大学入学共通テストの成績は利用しません。

- 入学者選抜方法等（一般選抜）〔11 頁参照〕
- 入学者選抜の実施教科・科目等について〔12～19 頁参照〕
- 教育学部一般選抜「前期日程」で課する実技検査の概要〔20 頁参照〕
- 大学入学共通テスト及び個別学力検査等配点表〔22, 23 頁参照〕

6. 2 段階選抜

経済学部の「前期日程」「後期日程」において、2段階選抜を実施することがあります。〔11 頁参照〕
教育学部、データサイエンス学部では2段階選抜を実施しません。

7. 個別学力検査等の特別追試験

教育学部、経済学部及びデータサイエンス学部ともに、次表のとおり新型コロナウイルス感染症等に罹患した志願者を対象として「前期日程」「後期日程」特別追試験（以下「追試験」という）を実施します。

なお、本学の異なる学部に出願し、「前期日程」と「後期日程」のいずれも追試験の対象となった場合は、いずれか1つの学部の追試験しか受験できません。

また、「前期日程」の国公立大学・学部合格し、所定の期日までに入学手続を行った者は、「後期日程」の追試験を受験していても入学許可は得られません。

日 程	学 部	追試験実施日	合格発表日
前 期 日 程	教育学部 経済学部 データサイエンス学部	令和5年3月22日(水)	令和5年3月26日(日)
後 期 日 程			

追試験対象者や実施にかかる詳細については、「一般選抜学生募集要項」（11月上旬）にて発表します。

なお、大学入学共通テスト及び個別学力検査等配点については、各学部とも「前期日程」及び「後期日程」の内容と同一としますが、教育学部の「前期日程」における実施教科・科目及び個別学力検査等配点については、一部変更することがあります。

別表 1

入学者選抜方法等（一般選抜）

前期日程

学 部	選抜方法等 課程・学科		個 別 学 力 検 査 等								個別学力検査 等の日程	備 考 (欠員の補充 の方法等)
			個別学力 検査を課す る	実 技 検 査 等				2 段 階 選 抜				
				実技検査 を課する	面接を 行う	小論文 を課する	外国語 における リスニン グテスト を課する	主として、調査書の内容 と大学入学共通テスト の成績により第1段階 選抜を行い、その合格 者について更に必要 な検査等を行う	第1段階の選抜 による合格者数 定員に 対する 倍率	その他		
教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	文 系 型	○	×	×	×	×	×	×	×	令 和 5 年 2月25日(土)	追加合格を 実施する
		理 系 型	○	×	×	×	×					
		面 接 型	○	×	○	×	×				令 和 5 年 2月25日(土) ・26日(日) (注2)	
		実 技 型	○	○	×	×	×					
経 済 学 部	総 合 経 済 学 科	○	×	×	×	×	○	約10倍	×	令 和 5 年 2月25日(土)	追加合格を 実施する	
データサイエンス学部	データサイエンス学科	○	×	×	×	×	×	×	×	令 和 5 年 2月25日(土)	追加合格を 実施する	

後期日程

学部	選抜方法等 課程・学科	個 別 学 力 検 査 等								個別学力検査等の日程	備 考 (欠員の補充の方法等)
		個別学力検査を課する	実 技 検 査 等			2 段 階 選 抜					
			実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	主として、調査書の内容と大学入学共通テストの成績により第1段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の選抜による合格者数 定員に対する倍率	その他		
教育学部	学校教育教員養成課程	×	×	×	○	×	×	×	×	令和5年 3月12日(日)	追加合格を実施する
経済学部	総合経済学科	○	×	×	×	×	○	約15倍	×	令和5年 3月12日(日)	追加合格を実施する
データサイエンス学部	データサイエンス学科	○	×	×	×	×	×	×	×	令和5年 3月12日(日)	追加合格を実施する

(注) 1. 各項目について、○印は該当する場合、×印は該当しない場合です。

2. 教育学部前期日程学校教育教員養成課程実技型の個別学力検査日程は実技検査のみ26日(日)に実施する場合があります。その他は25日(土)に実施します。

別 表 2

令和5年度 滋賀大学入学者選抜の

学部・学科等名及び入学定員等 (令和4年度志願倍率)		学力検査 等の区分 ・日 程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		
			教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	2段階 選 抜
教育学部 (3.7倍) 230名 前期 134名 後期 24名 その他 72名	学校教育教員養成課程 前期 230名 前期 134名 後期 71名 文系型 39名 理系型 7名 実技型 17名 後期 24名 その他 72名	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	国語 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から2 現社,倫,政経,倫・政経 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,簿,情報 から1 物,化,生,地, } から1 基礎2科目 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕	国 外	国語総合 コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ	
		前期 2月25日	国 地歴 公民 数	国語 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ・数B,簿,情報 から1 物,化,生,地, } から2 基礎2科目 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目〕	数 外	数Ⅰ,数Ⅱ,数A,数B コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ	
		前期 2月25日	国 数 面接型 地歴 公民 理 外	国語 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,簿,情報 から1 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 又は2 物,化,生,地, } から1 基礎2科目 } 又は2 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ グループ面接	
		前期 2月25日	国 地歴 公民 数 実技型 (音楽) (美術) 理 外	国語 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,簿,情報 から1 物,化,生,地, } から1 基礎2科目 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科6科目〕	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ 実技検査	
		前期 2月25日	国 数 実技型 (保健) (体育) 地歴 公民 理 外	国語 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,簿,情報 から1 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 又は2 物,化,生,地, } から1 基礎2科目 } 又は2 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ 実技検査	
		後期 3月12日	国 数 地歴 公民 理 外	国語 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,簿,情報 から1 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 又は2 物,化,生,地, } から1 基礎2科目 } 又は2 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕	その他	小論文	

実施教科・科目等について

大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等											そ の 他 の 選 抜 方 法 等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	実技 検査	小論文	面接	配点 合計	
共通テスト	200	200		200	100	200				900	学校推薦型 総合型 帰国生徒 社会人 私費外国人留学生 追加合格
個別学力検査	200					200				400	
計	400	200		200	100	400				1,300	
共通テスト	200	100		200	200	200				900	
個別学力検査				200		200				400	
計	200	100		400	200	400				1,300	
共通テスト	200	＊ 300		200	＊ 300	200				900	
個別学力検査						200			200	400	
計	200	＊ 300		200	＊ 300	400			200	1,300	
共通テスト	200	100		200	100	200				800	
個別学力検査						100	400			500	
計	200	100		200	100	300	400			1,300	
共通テスト	200	＊ 300		200	＊ 300	200				900	
個別学力検査						100	300			400	
計	200	＊ 300		200	＊ 300	300	300			1,300	
共通テスト	200	＊ 300		200	＊ 300	200				900	
個別学力検査								200		200	
計	200	＊ 300		200	＊ 300	200		200		1,100	

学部・学科等名及び入学定員等 (令和4年度志願倍率)			学力検査 等の区分 ・日 程	大学入学共通テストの利用教科・科目名			
				教科	科 目 名 等	教科	科 目 名 等
経済学部 (5.9倍) 410名 前 期 172名 後 期 150名 その他 88名	総合経済学科 410名 前 期 172名 後 期 150名 その他 88名	前期 2月25日	国 外 数 地歴 公民	国語 英、独、仏、中、韓から1 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数B、 簿、情報 世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 〔3教科3科目〕	国 外 数 地歴 公民 理	国語 英、独、仏、中、韓から1 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 物、化、生、地、 基礎2科目 〔5教科7科目又は6教科7科目〕	
							後期 3月12日
経済学部 (2.0倍) 50名 その他 50名	総合経済学科 50名 その他 50名		一般選抜は実施しません				

個 別 学 力 検 査 等			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等									そ の 他 の 選 抜 方 法 等
教科等	科 目 名 等	2段階 選 抜	試験の区分		国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点 合計	
国 外	国語総合 コミュニケーション英語Ⅰ、 コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、 英語表現Ⅱ	○	A 方 式	共通テスト	200	#100		#100		200	500	学校推薦型 総合型 私費外国人留学生 追加合格
				個別学力検査	200					200	400	
				計	400	#100		#100		400	900	
			B 方 式	共通テスト	200	*300		200	*300	200	900	
				個別学力検査	200					200	400	
				計	400	*300		200	*300	400	1,300	
数 外	数Ⅰ,数Ⅱ,数A,数B コミュニケーション英語Ⅰ、 コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、 英語表現Ⅱ	○	A 方 式	共通テスト	200	#100		#100		200	500	
				個別学力検査				200		200	400	
				計	200	#100		#100 200		400	900	
			B 方 式	共通テスト	200	*300		200	*300	200	900	
				個別学力検査				200		200	400	
				計	200	*300		400	*300	400	1,300	
国 外	国語総合 コミュニケーション英語Ⅰ、 コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、 英語表現Ⅱ	○	A 方 式	共通テスト	200	#100		#100		200	500	
				個別学力検査	500					500	1,000	
				計	700	#100		#100		700	1,500	
			B 方 式	共通テスト	200	*300		200	*300	200	900	
				個別学力検査	500					500	1,000	
				計	700	*300		200	*300	700	1,900	
数 外	数Ⅰ,数Ⅱ,数A,数B コミュニケーション英語Ⅰ、 コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、 英語表現Ⅱ	○	A 方 式	共通テスト	200	#100		#100		200	500	
				個別学力検査				500		500	1,000	
				計	200	#100		#100 500		700	1,500	
			B 方 式	共通テスト	200	*300		200	*300	200	900	
				個別学力検査				500		500	1,000	
				計	200	*300		700	*300	700	1,900	
												総合型

学部・学科等名及び入学定員等 (令和4年度志願倍率)		学力検査 等の区分 ・日 程	大学入学共通テスト試験の利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		
			教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	2 段階 選 抜
データサイエンス学部 (3.7倍)	データサイエンス学科	前期 2月25日	国 数	国語 数Ⅰ・数Ⅱと 数Ⅱ・数Ⅲ、簿、情報から1	数 外	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Ⅳ、数Ⅴ コミュニケーション英語Ⅰ、 コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	
			地歴 公民 理 外	世Ⅰ、世Ⅱ、日Ⅰ、日Ⅱ、地理Ⅰ、地理Ⅱから1 現社、倫、政経、倫・政経から1 物、化、生、地、基礎2科目から1 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕			
		後期 3月12日	国 数	国語 数Ⅰ・数Ⅱと 数Ⅱ・数Ⅲ、簿、情報から1	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ、 コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ 総合問題	
			地歴 公民 理 外	世Ⅰ、世Ⅱ、日Ⅰ、日Ⅱ、地理Ⅰ、地理Ⅱから1 現社、倫、政経、倫・政経から1 物、化、生、地、基礎2科目から1 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕			

大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等											そ の 他 の 選 抜 方 法 等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	面接	配点 合計	
共通テスト	200	＊ 300		200	＊ 300	200				900	総合型 追加合格
個別学力検査				200		200				400	
計	200	＊ 300		400	＊ 300	400				1,300	
共通テスト	200	＊ 300		200	＊ 300	200				900	
個別学力検査						300	300			600	
計	200	＊ 300		200	＊ 300	500	300			1,500	

〔注意事項〕

1. 大学入学共通テストの利用教科・科目について

- (1) 基礎 2 科目は、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎のうち 2 科目の選択を表します。
- (2) 地理歴史、公民、理科において、「物理」と「物理基礎」など、同一名称を含む科目の組み合わせで 2 科目を選択することはできません。
- (3) 数学の「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、普通科・理数科を除く高等学校においてこれらの科目を履修した者、及び専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- (4) 経済学部の大学入学共通テストの利用教科・科目は、「A 方式」又は「B 方式」により行います。

2. 配点について

- (1) 教育学部、経済学部及びデータサイエンス学部の＊は、選択教科を示し、4 科目受験した場合は、「地理歴史、公民の第 1 解答科目」、「理科の第 1 解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第 2 解答科目から高得点の 1 科目」の合計 3 科目の成績を用います。

なお、「理科」で基礎 2 科目を選択した場合は、「地理歴史、公民の第 1 解答科目」、「理科の第 1 解答科目と基礎 2 科目から高得点の科目」及び「地理歴史、公民と理科の上記で用いなかった科目から高得点の 1 科目」の合計 3 科目の成績を用います。

- (2) 経済学部の＃は、選択教科を示し、2 教科以上受験した場合は、「地理歴史、公民の第 1 解答科目」と「数学」から高得点の 1 教科 1 科目の成績を用います。
- (3) 「地理歴史、公民」及び「理科」において、2 科目受験した場合の 1 科目利用には、「地理歴史、公民」は、第 1 解答科目の成績を用い、「理科」は、第 1 解答科目と基礎 2 科目から高得点の科目の成績を用います。
- (4) 大学入学共通テストの外国語の「英語」の配点には、リスニングの成績を含み、その利用方法については次のとおりとします。

リーディング（100 点満点）とリスニング（100 点満点）の計 200 点満点を学部ごとに次の表の値をかけて換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。

学 部	リーディング（100 点）	リスニング（100 点）
教 育 学 部	1	1
経 済 学 部	2	1
データサイエンス学部	4	1

リスニングを免除された者は、リーディング（100 点）を 200 点満点に換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。

「英語」以外を選択した場合は、筆記（200 点満点）の成績を各学部で利用する配点に換算します。

- (5) 経済学部の「前期日程」「後期日程」の配点は、「A 方式」又は「B 方式」により行います。
- (6) 経済学部の「前期日程」「後期日程」の個別学力検査の配点は、「国語・外国語」又は「数学・外国語」の組み合わせにより行います。

3. 個別学力検査等の出題範囲及び出題方法等について

(1) 教育学部

- 国 語 国語総合から出題します。
- 数 学 数Ⅰ、数Ⅱ [全範囲]、数Ⅲ、数Ⅳ [（数列）と（ベクトル）] から出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 外 国 語 コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱから出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 実技検査 音楽実技、美術実技、体育実技を実施します（「前期日程」のみ、20 頁の別表 3 参照）。

(2) 経済学部

- 国 語 国語総合から出題します。ただし、古文及び漢文は課しません。
- 数 学 数Ⅰ、数Ⅱ [全範囲]、数Ⅲ、数Ⅳ [（数列）と（ベクトル）] から出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 外 国 語 コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱから出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。

(3) データサイエンス学部

- 数 学 数Ⅰ，数A〔全範囲〕，数Ⅱ，数B〔（数列）と（ベクトル）〕から共通問題を出題します。加えて，「①共通問題と同じ出題範囲，②数B〔（確率分布と統計的な推測）〕，③数Ⅲ」の3つの範囲から選択問題を出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 外 国 語 コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱから出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 総合問題 社会や日常生活での課題をとりあげた図や表を含む文章を素材に，表やグラフを読み取り，それらを用いてデータを分析し，分かったことをまとめ，その解釈について議論する能力を問います。

4. その他

- (1) 教育学部の「前期日程」の個別学力検査の教科は，受験型に応じて「外国語・国語」，「外国語・数学」，「外国語・実技検査」又は「外国語・面接」の組み合わせにより行います。各受験型間の複数志願はできません。
「後期日程」の個別学力検査の教科は，「小論文」です。
- (2) 経済学部の昼間主コースの「前期日程」「後期日程」の個別学力検査の教科は，「国語・外国語」又は「数学・外国語」の組み合わせにより行います。
- (3) 経済学部の夜間主コースの選抜は，総合型選抜（入学定員50名）で実施します。

–20–

別表 4

一般選抜個別学力検査等の実施日程

学部	日程	実施日	教科等	時間
教育学部	前期日程	令和5年2月25日(土)	外国語	10:30~12:00
			国語	13:30~15:00
			数 学	
			グループ面接	13:30~17:00(予定)
			障害児教育	
			音楽	
			美術	
経済学部	前期日程	令和5年2月25日(土)	外国語	10:30~12:00
			国語又は数学	13:30~15:00
	後期日程	令和5年3月12日(日)	外国語	10:30~12:00
			国語又は数学	13:40~15:10
データサイエンス学部	前期日程	令和5年2月25日(土)	外国語	10:30~12:00
			数 学	13:30~15:00
	後期日程	令和5年3月12日(日)	外国語	10:30~12:00
			総合問題	13:40~15:10

(注) 教育学部前期日程の実技検査において、志願者数が多い場合は翌日(26日)に検査を実施する場合があります。

実技検査の実施日は別途通知します。

追試験については、試験実施日(令和5年3月22日(水))、合格発表日(令和5年3月26日(日))以外の詳細は、「一般選抜学生募集要項」(11月上旬)にて発表します。

別表 5

合格者発表

日 程	学 部	発 表 日
前 期 日 程	教 育 学 部	令和5年3月6日(月)
	経 済 学 部	
	データサイエンス学部	
後 期 日 程	教 育 学 部	令和5年3月20日(月)
	経 済 学 部	
	データサイエンス学部	

(注) 追試験については、試験実施日(令和5年3月22日(水))、合格発表日(令和5年3月26日(日))以外の詳細は、「一般選抜学生募集要項」(11月上旬)にて発表します。

大学入学共通テスト及び個別学力検査等配点表

前期日程

学部	課 程	受験型	大学入学共通テスト								個別学力検査等						合計
			外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	外国語	国語	数学	実技	面接	計		
教育学部	学校教育教員養成課程	文系型	200	200	200	200		100	900	200	200				400	1,300	
		100				200		200									
		*300 (100×3)									200						
		実技型 (音楽) (美術)				100		100	800	100				400			500
		実技型 (保健体育)				*300 (100×3)			900					300			400
		学 科				区分	外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	国語	数学		外国語
総合経済学科	A 方式	200	200	#100				500	200	200	200	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択		400	900		
	B 方式	200	200	200	*300 (100×3)			900	200	200	200	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択		400	1,300		
データサイエンス学部	学 科		外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	数学		外国語		計	合計		
	データサイエンス学科		200	200	200	*300 (100×3)			900	200		200		400	1,300		

- (注) 1. 教育学部、経済学部及びデータサイエンス学部の*は、選択教科を示し、4科目受験した場合は「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目のうち高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
 なお、「理科」で基礎2科目を選択した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目と基礎2科目から高得点の科目」及び「地理歴史、公民と理科の上記で用いなかった科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
 2. 経済学部の#は、選択教科を示し、2教科以上受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」と「数学」から高得点の1教科1科目の成績を用います。
 3. 「地理歴史、公民」及び「理科」において、2科目受験した場合の1科目利用には、「地理歴史、公民」は、第1解答科目の成績を用い、「理科」は、第1解答科目と基礎2科目から高得点の科目の成績を用います。
 4. 大学入学共通テスト外国語の「英語」の配点には、リスニングの成績を含み、その利用方法については次のとおりとします。
 リーディング (100点満点) とリスニング (100点満点) の計200点満点を学部ごとに次の表の値をかけて換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。

学 部	リーディング (100点)	リスニング (100点)
教 育 学 部	1	1
経 済 学 部	2	1
データサイエンス学部	4	1

リスニングを免除された者は、リーディング (100点) を200点満点に換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。
「英語」以外を選択した場合は、筆記 (200点満点) の成績を各学部で利用する配点に換算します。

後期日程

学部	課 程		大 学 入 学 共 通 テ ス ト							個 別 学 力 検 査 等					合計
			外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	小論文			計		
教育学部	学校教育教員養成課程		200	200	200	*300 (100×3)			900	200			200	1,100	
経済学部	学 科	区分	外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	国語	数学	外国語		計	合計
	総 合 経 済 学 科	A 方 式	200	200	#100				500	500	500	500	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択	1,000	1,500
		B 方 式	200	200	200	*300 (100×3)			900	500	500	500	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択	1,000	1,900
データサイエンス学部	学 科		外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	外国語		総合問題		計	合計
	データサイエンス学科		200	200	200	*300 (100×3)			900	300		300		600	1,500

- (注) 1. 教育学部、経済学部及びデータサイエンス学部の*は、選択教科を示し、4科目受験した場合は「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
 なお、「理科」で基礎2科目を選択した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目と基礎2科目から高得点の科目」及び「地理歴史、公民と理科の上記で用いなかった科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
2. 経済学部の#は、選択教科を示し、2教科以上受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」と「数学」から高得点の1教科1科目の成績を用います。
3. 「地理歴史、公民」及び「理科」において、2科目受験した場合の1科目利用には、「地理歴史、公民」は、第1解答科目の成績を用い、「理科」は、第1解答科目と基礎2科目から高得点の科目の成績を用います。
4. 大学入学共通テスト外国語の「英語」の配点には、リスニングの成績を含み、その利用方法については次のとおりとします。
 リーディング (100 点満点) とリスニング (100 点満点) の計 200 点満点を学部ごとに次の表の値をかけて換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。

学 部	リーディング (100 点)	リスニング (100 点)
教 育 学 部	1	1
経 済 学 部	2	1
データサイエンス学部	4	1

リスニングを免除された者は、リーディング (100 点) を 200 点満点に換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。
 「英語」以外を選択した場合は、筆記 (200 点満点) の成績を各学部で利用する配点に換算します。

経済学部一般選抜制度の概要

経済学部一般選抜「前期日程」「後期日程」において、大学入学共通テストの受験教科・科目によりA方式（3教科3科目）、B方式（5教科7科目又は6教科7科目）の2つの採点方式を併用した総合順位方式を導入しています。

大学入学共通テストの受験教科・科目により、A方式のみが適用されるか、あるいは、A方式とB方式の両方が適用されるかが、自動的に決定されますので、出願時にA方式、B方式のどちらか一方の採点方式を選択する必要はありません。

その概要は以下のとおりです。

1. 全受験者をA方式により採点し、順位付けを行います。
2. 大学入学共通テストを5教科7科目以上受験した者は、A方式に加えてB方式でも採点し順位付けを行い、どちらかの順位のうち上位の順位を、その受験者の総合順位とします。
なお、A方式のみに該当する受験者は、A方式の順位がそのまま総合順位となります。
3. その総合順位により合格者を判定します。

総合順位方式の例

☆募集人員 10名

☆受 験 者 20名

うちB方式該当者（共通テスト
5教科7科目以上受験者）15名

↓

2つの採点方式による評価の結果が、右の表の順位となったと
想定

101 安藤

A方式のみ該当

A方式 17位

→総合順位 17位

102 井上

A方式 13位

B方式 11位

→総合順位 11位

番号 氏名	A方式順位	B方式順位	総合順位
101 安藤	17	—	17
102 井上	13	11	11
103 内田	14	10	10
104 江藤	2	—	2
105 小野	9	2	2
106 川合	16	14	14
107 木下	20	—	20
108 熊沢	1	1	1
109 見城	15	12	12
110 古賀	8	—	8
111 真田	3	9	3
112 清水	4	7	4
113 鈴木	7	—	7
114 瀬川	12	6	6
115 相馬	10	8	8
116 田中	19	13	13
117 茅野	5	4	4
118 土屋	6	3	3
119 寺山	18	15	15
120 富岡	11	5	5

この場合、下図のように総合6位までに9名、総合7位までに10名、総合8位までに12名なので、10名を選抜するためには総合7位までを合格とします。

＝すなわち、A・B両方式のそれぞれ7位までが合格

※ はA方式のみの受験者

A方式			B方式			総合順位		
108	熊沢	1	108	熊沢	1	108	熊沢	1
104	<u>江藤</u>	2	105	小野	2	104	<u>江藤</u>	2
111	真田	3	118	土屋	3	105	小野	2
112	清水	4	117	茅野	4	111	真田	3
117	茅野	5	120	富岡	5	118	土屋	3
118	土屋	6	114	瀬川	6	112	清水	4
113	<u>鈴木</u>	7	112	清水	7	117	茅野	4
110	<u>古賀</u>	8	115	相馬	8	120	富岡	5
105	小野	9	111	真田	9	114	瀬川	6
115	相馬	10	103	内田	10	113	<u>鈴木</u>	7
120	富岡	11	102	井上	11	110	<u>古賀</u>	8
114	瀬川	12	109	見城	12	115	相馬	8
102	井上	13	116	田中	13	103	内田	10
103	内田	14	106	川合	14	102	井上	11
109	見城	15	119	寺山	15	109	見城	12
106	川合	16				116	田中	13
101	<u>安藤</u>	17				106	川合	14
119	寺山	18				119	寺山	15
116	田中	19				101	<u>安藤</u>	17
107	<u>本下</u>	20				107	<u>本下</u>	20

↑
合格

↑
合格

不合格
↓

Ⅳ 学校推薦型選抜等

教育学部、経済学部、データサイエンス学部の入学者選抜方法等については、次のとおりです。

- 別表 8 入学者選抜方法等（学校推薦型選抜等） [27 頁参照]
- 別表 9 学校推薦型選抜等の実施日程 [28～31 頁参照]

1. 学校推薦型選抜

本学志望の意志が強く勉学に意欲ある優れた人で、出身高等学校長の推薦により、大学入学共通テスト、個別学力検査を免除し一般の入学者選抜とは別の方法により入学者の選抜を実施します。

- 別表 10-1 学校推薦型選抜 教育学部 [32 頁参照]
- 別表 10-2 学校推薦型選抜 経済学部 [33 頁参照]

2. 総合型選抜

本学志望の意志が強く勉学に意欲ある優れた人に対して、一般の入学者選抜とは別の方法で入学者の選抜を実施します。

（大学入学共通テストを免除）

- 別表 11-1 総合型選抜 教育学部 [34 頁参照]
- 別表 11-3 総合型選抜 経済学部（昼間主コース）【資格・検定型】 [36～37 頁参照]
- 別表 11-4 総合型選抜 経済学部（夜間主コース） [38 頁参照]

（大学入学共通テストを利用）

- 別表 11-2 総合型選抜 経済学部（昼間主コース）【課題図書型】 [35 頁参照]
- 別表 11-5 総合型選抜Ⅰ データサイエンス学部 [39 頁参照]
- 別表 11-6 総合型選抜Ⅱ データサイエンス学部 [40 頁参照]
- 別表 11-7 総合型選抜Ⅲ データサイエンス学部 [41 頁参照]
- 別表 11-8 総合型選抜 最終選考 経済学部・データサイエンス学部 [42 頁参照]

3. 帰国生徒選抜

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、外国で学校教育を受け、帰国後本学に入学を希望する生徒については、大学入学共通テストを免除し、一般の入学者選抜とは別の方法により入学者の選抜を実施します。

- 別表 12 帰国生徒選抜 教育学部 [43 頁参照]

4. 社会人選抜

生涯教育を推進し、勤労者に高等教育の機会を与え、真に社会人の多様なニーズに応えるため、大学入学共通テストを免除し、一般の入学者選抜とは別の方法により入学者の選抜を実施します。

- 別表 13 社会人選抜 教育学部 [44 頁参照]

5. 私費外国人留学生選抜

日本国籍を有せず、外国において 12 年の学校教育課程を修了した者もしくはこれに準ずる者を対象に、選抜を実施します。

- 別表 14-1 私費外国人留学生選抜 教育学部 [45 頁参照]
- 別表 14-2 私費外国人留学生選抜 経済学部 [46 頁参照]

入学者選抜方法等（学校推薦型選抜等）

学部	選抜方法等 課程・コース・専攻・専修 学科		学 校 推 薦 型 選 抜						学校推薦型選抜募集人員	総合型選抜	帰国生徒選抜	社会人選抜	私費外国人留学生選抜	備考
			個別学力検査を免除し、大学入学共通テストを課する	個別学力検査及び大学入学共通テストを免除する	実 技 検 査 等									
					実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する						
教育学部	学校 教育 教員 養成 課程	初等教育コース教育文化専攻	×	○	28 頁 又 は 47 頁 を 参 照				1 頁 ， 3 頁 又 は 32 頁 を 参 照	○	○	○	○	
		初等教育コース教育心理実践専攻												
		初等教育コース幼児教育専攻												
		初等教育コース国際理解教育専攻												
		初等教育コース環境教育専攻												
		初等教育コース初等理科専攻												
		初等教育コース初等英語専攻												
		初等教育コース初等教科専攻国語専修												
		中等教育コース国語専攻												
		初等教育コース初等教科専攻社会専修												
		中等教育コース社会専攻												
		初等教育コース初等教科専攻算数専修												
		中等教育コース数学専攻												
		中等教育コース理科専攻												
		初等教育コース初等教科専攻音楽専修												
		中等教育コース音楽専攻												
		初等教育コース初等教科専攻図画工作専修												
		中等教育コース美術専攻												
		初等教育コース初等教科専攻体育専修												
		中等教育コース保健体育専攻												
初等教育コース初等教科専攻情報・技術専修														
中等教育コース情報・技術専攻														
初等教育コース初等教科専攻家庭専修														
中等教育コース家庭専攻														
中等教育コース英語専攻														
障害児教育コース障害児教育専攻														
経済学部	総合経済学科	昼間主コース	×	○	×	○	○	×	1 頁 又 は 33 頁 を 参 照	○	×	×	○	
		夜間主コース	×									×		
データサイエンス学部	データサイエンス学科		×						○	×	×	×		

(注) 1. 各項目において、該当するものは○印、該当しないものは×印です。

学 校 推 薦 型 選 抜 等 の 実 施 日 程

教 育 学 部

選 抜 区 分		選 抜 期 日	地 域 推 薦 小 論 文	専 門 課 題	面 接
学 校 推 薦 型 選 抜	一 般 推 薦	令 和 4 年 11 月 19 日(土)		○初等教育コース初等教科専攻国語専修及び中等教育コース国語専攻 専門課題（小論文，実技）及び面接 11:00～17:00（予定） ○初等教育コース初等教科専攻音楽専修及び中等教育コース音楽専攻 専門課題（実技 ※一部論述形式）及び面接 10:45～17:00（予定） ○初等教育コース初等教科専攻図画工作専修及び中等教育コース美術専攻 専門課題（実技）及び面接 11:30～17:00（予定） ○初等教育コース初等英語専攻及び中等教育コース英語専攻 専門課題（実技）及び面接 11:30～17:00（予定）	
	地 域 推 薦	令 和 4 年 11 月 19 日(土)	小 論 文 9:15～10:15	○上記以外の募集区分 専門課題(小論文) 11:00～12:00 面 接 13:00～17:00（予定）	○初等教育コース初等教科専攻国語専修及び 中等教育コース国語専攻 面接 14:30～17:00（予定） ○初等教育コース初等教科専攻音楽専修及び 中等教育コース音楽専攻 （一般推薦を併願する地域推薦志願者） 面接 一般推薦における専門課題（実技）終了後～17:00(予定) （一般推薦を併願しない地域推薦志願者） 面接 10:45～17:00（予定） ○初等教育コース初等教科専攻図画工作専修及び 中等教育コース美術専攻 面接 15:00～17:00（予定） ○初等教育コース初等英語専攻及び 中等教育コース英語専攻 面接 11:30～17:00（予定） ○上記以外の募集区分 面 接 13:00～17:00（予定）

- (注) 1. 10 時 45 分及び 11 時から開始の専門課題（実技）及び面接は途中に昼食の時間をはさみます。11 時 30 分から開始の専門課題（実技）及び面接は途中に昼食の時間をはさみません。開始までに昼食を済ませてください。
2. 一般推薦及び地域推薦の面接は，出願時に申請した募集区分の専攻・専修ごとで実施します。
 なお，一般推薦と地域推薦の併願者には，両推薦の面接を一度で実施します。
3. 面接のため長時間待機することがあります。

選 抜 区 分		選 抜 期 日	科 目 等
総 合 型 選 抜	第 1 次 選 抜	令 和 4 年 9 月 23 日（金・祝）	小 論 文（講義受講を含む） 10:00～12:30（予定） 上記時間内で ・ 講義 ・ 小論文 50 分 を予定
	第 2 次 選 抜	令 和 4 年 11 月 20 日（日）	ポスター発表（質疑応答を含む） 9:30～13:00（予定）

- (注) 1. 第 1 次選抜は台風など災害の発生に備えて実施期日の翌日 9 月 24 日(土)を予備日として設定します。
2. 第 2 次選抜は第 1 次選抜の通過者に対して実施される試験です。
3. 第 2 次選抜の試験時間等については第 1 次選抜の通過者に対して別途お知らせします。
4. 第 2 次選抜はポスター発表のため長時間待機することがあります。

選 抜 区 分	選 抜 期 日	専 門 課 題	面 接
帰国生徒選抜	令和4年 11月19日(土)	○ 初等教育コース初等教科専攻国語専修及び中等教育コース国語専攻 専門課題(小論文, 実技) 及び面接 11:00～17:00 (予定)	
		○ 初等教育コース初等教科専攻音楽専修及び中等教育コース音楽専攻 専門課題(実技 ※一部論述形式) 及び面接 10:45～17:00 (予定)	
社会人選抜	令和4年 11月19日(土)	○ 初等教育コース初等教科専攻図画工作専修及び中等教育コース美術専攻 専門課題(実技) 及び面接 11:30～17:00 (予定)	
		○ 初等教育コース初等英語専攻及び中等教育コース英語専攻 専門課題(実技) 及び面接 11:30～17:00 (予定)	
		○ 上記以外の募集区分 専門課題(小論文) 11:00～12:00 面接 13:00～17:00 (予定)	
		○ 初等教育コース初等教科専攻国語専修及び中等教育コース国語専攻 専門課題(小論文) 11:00～12:00 面接 13:30～17:00 (予定)	
		○ 初等教育コース初等教科専攻音楽専修及び中等教育コース音楽専攻 専門課題(実技 ※一部論述形式) 及び面接 10:45～17:00 (予定)	
		○ 初等教育コース初等教科専攻図画工作専修及び中等教育コース美術専攻 専門課題(実技) 及び面接 11:30～17:00 (予定)	
		○ 初等教育コース初等英語専攻及び中等教育コース英語専攻 専門課題(実技) 及び面接 11:30～17:00 (予定)	
		○ 上記以外の募集区分 専門課題(小論文) 11:00～12:00 面接 13:00～17:00 (予定)	

- (注) 1. 10時45分及び11時から開始の専門課題(実技)及び面接は途中で昼食の時間をはさみます。11時30分から開始の専門課題(実技)及び面接は途中で昼食の時間をはさみません。開始までに昼食を済ませてください。
2. 面接のため長時間待機することがあります。

選 抜 区 分	選 抜 期 日	科 目 等
私費外国人留学生選抜	令和4年 11月30日(水)	口述試験 13:00～17:00 (予定)

- (注) 口述試験のため長時間待機することがあります。

経済学部

選 抜 区 分	選 抜 期 日	科 目 等	面 接
学校推薦型選抜	第 1 次選考 令和 4 年 11 月 12 日(土)	小 論 文 10:00 ～ 12:30	
	第 2 次選考 令和 4 年 11 月 26 日(土)		10:00 ～ 16:00 (予定)
総合型選抜 (昼間主コース) 【課題図書型】	第 1 次選考 書類選考		
	第 2 次選考 令和 4 年 10 月 15 日(土)		10:00 ～ 16:00 (予定) (質疑応答を含む プレゼンテーション)
総合型選抜 (昼間主コース) 【資格・検定型】	第 1 次選考 令和 4 年 10 月 15 日(土)		10:00 ～ 16:00 (予定)
総合型選抜 (夜間主コース)	第 1 次選考 令和 4 年 11 月 12 日(土)	小 論 文 10:00～12:30	
	第 2 次選考 令和 4 年 11 月 27 日(日)		10:00 ～ 16:00 (予定)
私費外国人留学生選抜	令和 4 年 12 月 3 日(土)	外 国 語 10:00～11:30	12:30 ～ 16:00 (予定)

(注) 面接は、受験者数により長時間待機することがあります。

データサイエンス学部

選 抜 区 分	選 抜 期 日	科 目 等
総合型選抜Ⅰ	第１次選考 令和４年９月２３日(金・祝)	講 義 10:30～12:00 課題レポート 13:00～14:30
	第２次選考 令和４年１０月１５日(土)	面 接 10:00 ～ 16:00 (予定)
総合型選抜Ⅱ	第１次選考 令和４年９月２３日(金・祝)	小論文 15:00 ～ 16:30
	第２次選考 令和４年１０月１５日(土)	面 接 10:00 ～ 16:00 (予定)
総合型選抜Ⅲ	第１次選考 書類選考	
	第２次選考 令和４年１０月１５日(土)	面 接 10:00 ～ 16:00 (予定)

(注) 面接は、受験者数により長時間待機することがあります。

学 校 推 薦 型 選 抜

実 施 学 部	教 育 学 部				
募 集 人 員	課 程	一般推薦	地域推薦	計	(注) 一般推薦の募集区分と区分ごとの募集人員は 3 頁を参照してください。
51 名	学校教育教員養成課程	41 名	10 名	51 名	
出 願 要 件	一 般 推 薦		地 域 推 薦		
	次の一般推薦・地域推薦の区分において、それぞれの各号のすべてに該当する者で、学業成績が優秀で高等学校長が責任をもって推薦できる者。また、合格した場合は、入学することを確約できる者				
	(1) 高等学校（特別支援学校の高等部及び中等教育学校の後期課程並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ）を令和 5 年 3 月卒業（修了）見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む） (2) 教員になる強い意欲を持つ者 (3) 高等学校の調査書における学業成績の全体の学習成績の状況が、区分 A では 4.0 以上の者。区分 B では 4.3 以上の者		(1) 滋賀県内の高等学校（特別支援学校の高等部並びに中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を令和 5 年 3 月卒業（修了）見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む） (2) 滋賀県で学校教員になる強い意欲を持つ者 (3) 高等学校の調査書における学業成績の全体の学習成績の状況が 4.0 以上の者		
	教育学部 学校推薦型選抜（一般・地域）の出願要件に該当する者は、教育学部総合型選抜と教育学部 学校推薦型選抜（一般・地域）に出願することができます。なお、学校推薦型選抜において地域推薦の出願要件に該当する者は、地域推薦と一般推薦の両方に出願することができます（学校推薦型選抜（一般・地域）に必要な推薦書・調査書は 1 通だけです。教育学部 総合型選抜に出願の際は別途調査書をご準備ください）。				
推 薦 人 員	高等学校長が推薦できる人員は、1 校につき 6 名以内（その内地域推薦に推薦できるのは 3 名以内）とします。なお、同一の者を一般推薦と地域推薦の両方に推薦する場合でも、1 名と数えます。				
選 抜 方 法 等	個別学力検査及び大学入学共通テストを免除し、高等学校長からの推薦書に基づき、一般推薦・地域推薦ごとの選抜方法によって選抜を行います。 なお、教育学部 学校推薦型選抜（一般・地域）と教育学部 総合型選抜を受験していずれも合格した場合には教育学部 学校推薦型選抜（一般・地域）の合格者として扱い、教育学部 総合型選抜の合格者数には加えません。 一般推薦と地域推薦の両方を受験していずれも合格した場合には地域推薦での合格として扱い、一般推薦の合格者数には加えません。学校推薦型選抜に合格した場合には出願した募集区分の専攻・専修に所属するものとします。				
	専門への関心や知識、課題探究能力を重視し、調査書、専門課題、面接の成績を総合して判定します。		地域への関心と教育への熱意を重視し、調査書、小論文、面接の成績を総合して判定します。		
出 願 期 間	令和 4 年 11 月 1 日(火)～11 月 4 日(金)				
選 抜 期 日	令和 4 年 11 月 19 日(土)				
合格者発表日	令和 4 年 12 月 9 日(金)				
そ の 他	1. 詳細は「学校推薦型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。 2. 実技検査の概要については 47 頁を参照してください。				

学 校 推 薦 型 選 抜

実 施 学 部	経 済 学 部	
募 集 人 員	60 名	
出 願 要 件	A 推 薦 (40 名)	次の各号のすべてに該当する者で、学業成績優秀で高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 高等学校（特別支援学校の高等部及び中等教育学校の後期課程並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ）を令和 5 年 3 月卒業（修了）見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む） (2) 高等学校の調査書における学業成績の全体の学習成績の状況が 4.0 以上の者 (3) 合格した場合は、入学することを確約できる者
	B 推 薦 (20 名)	次の各号のすべてに該当する者で、学業成績優秀で高等学校長が責任をもって推薦できる者。 (1) 高等学校設置基準（平成 16 年文部科学省令第 20 号）第 6 条第 2 項に規定する「商業に関する学科」、「情報に関する学科」及び「その他専門教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科」、又は同条第 3 項に規定する「総合学科」を令和 5 年 3 月に卒業（修了）見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む）。ただし、「その他専門教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科」及び「総合学科」にあつては商業又は情報に関する教科・科目を合わせて 20 単位以上修得（見込みを含む）した者 (2) 高等学校の調査書における学業成績の全体の学習成績の状況が 4.0 以上の者 (3) 次の検定試験のいずれかに合格している者 ア．日本商工会議所主催簿記検定試験 2 級以上 イ．公益財団法人全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験 1 級 ウ．経済産業省主催情報処理技術者試験 各試験区分のいずれかの合格者 エ．公益財団法人全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験 1 級（プログラミング部門又はビジネス情報部門） (4) 合格した場合は、入学することを確約できる者
選 抜 方 法 等	個別学力検査及び大学入学共通テストを免除し、第 1 次選考及び第 2 次選考により行います。 (1) 第 1 次選考 小論文（英文資料による出題を含む）と高等学校長から提出された推薦書、調査書を併せ審査して選考します。 (2) 第 2 次選考 第 1 次選考の合格者に対して出願書類（エッセイ、活動報告書）等に関して個人面接を行い、第 1 次選考の成績とも併せ、総合的に選考します。	
出 願 期 間	令和 4 年 11 月 1 日（火）～11 月 4 日（金）	
選 抜 期 日	第 1 次選考 令和 4 年 11 月 12 日（土）	第 2 次選考 令和 4 年 11 月 26 日（土）
合 格 者 発 表 日	第 1 次選考 令和 4 年 11 月 18 日（金）	第 2 次選考 令和 4 年 12 月 2 日（金）
推 薦 人 員	高等学校長が推薦できる人員は、1 校につき 3 名以内とします。	
そ の 他	1. 詳細は「学校推薦型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。 2. 経済学部の総合型選抜との併願については、37 頁を参照してください。	

総 合 型 選 抜

実 施 学 部	教 育 学 部
募 集 人 員	21 名
出 願 要 件	次の各号のすべてに該当する者としてします。 (1) 高等学校(特別支援学校の高等部及び中等教育学校の後期課程並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む)を令和3年4月1日から令和5年3月31日までに、卒業(修了)した者又は卒業(修了)見込みの者 (2) 学校教員になる強い意欲を持つ者 (3) 高等学校の調査書における学業成績の全体の学習成績の状況が3.5以上の者 (4) 合格した場合は、入学することを確約できる者 教育学部 学校推薦型選抜(一般・地域)の出願要件に該当する者は、教育学部 総合型選抜と教育学部 学校推薦型選抜(一般・地域)に出願することができます。
選 抜 方 法 等	入学者の選抜は、大学入学共通テストを課さず、次のとおり第1次選抜及び第2次選抜を実施します。なお、調査書、志望理由書により高等学校等での基礎的学力と学校教員になろうとする意欲を確認します。 [第1次選抜] 大学教員による講義を行い、小論文を課します。 [第2次選抜] 第1次選抜の通過者に対して、課題図書の内容に関するポスター発表(質疑応答を含む)を課します。 ア) 総合型選抜合格者の所属コース・専攻・専修は、1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。 イ) 教育学部 学校推薦型選抜(一般・地域)と教育学部 総合型選抜を受験していずれも合格した場合は教育学部 学校推薦型選抜(一般・地域)の合格者として扱い、教育学部 総合型選抜の合格者数には加えません。 なお、一般推薦と地域推薦の両方を受験していずれも合格した場合には地域推薦での合格として扱い、一般推薦の合格者数には加えません。
出 願 期 間	令和4年9月1日(木)～9月7日(水)
選 抜 期 日	第1次選抜：令和4年9月23日(金・祝) 第2次選抜：令和4年11月20日(日)
通 過 者 ・ 合 格 者 発 表 日	第1次選抜：令和4年10月7日(金) 第2次選抜：令和4年12月9日(金)
そ の 他	詳細は「総合型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。

総合型選抜（昼間主コース）【課題図書型】

実施学部	経 済 学 部
募集人員	【資格・検定型】とあわせて18名
出願要件	次の各号のすべてに該当する者としします。 (1) 次のいずれかに令和3年4月1日から令和5年3月31日までに該当する者 ①高等学校（特別支援学校の高等部及び高等専門学校）の3年次並びに中等教育学校の後期課程を含む、以下同じ）を卒業（修了）した者又は卒業（修了）見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は修了見込みの者 ③学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者又は認められる見込みの者 (2) 本学部が指定した令和5年度大学入学共通テストの教科・科目を受験する者 (3) 合格した場合は、入学することを確約できる者
選抜方法等	入学者の選抜は、第1次選考、第2次選考及び最終選考（大学入学共通テスト）を通じて行います。第1次選考、第2次選考では、提示された課題図書や他の受験者の意見を的確に理解する力、理解した内容を表現する力に重点を置いて判定を行います。 (1) 第1次選考 滋賀大学ホームページで提示する課題図書に関する課題レポートと出願書類（調査書、志望理由書）を併せて、総合的に選考します。 剽窃は不正行為として対処します。引用元の明示があったとしても、受験者本人による要約でない場合は課題要件を満たさないものとして0点になります。 (2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対して、次の①から③を課し、その評価と第1次選考の成績を併せて、総合的に選考します。 ①受験者は、第1次選考で自身が提出した課題レポートのプレゼンテーションを行う。その内容や手法が適切であるかをみる。 ②受験者は、他の受験者のプレゼンテーションを聴き、その内容や手法の良否を評価する。その評価能力をみる。 ③プレゼンテーション後に受験者間で討論と質疑応答を行う。他の受験者の質問・意見に対する理解力や適切な応答を行う対応力をみる。 (3) 最終選考 第2次選考の合格者のうち、本学部が指定した令和5年度大学入学共通テストの教科・科目の合計得点(900点満点)が630点以上の者を最終合格者としします。 〔別表 11-8 参照〕
出願期間	令和4年9月1日(木)～9月7日(水)
選抜期日	第1次選考：書類選考 第2次選考：令和4年10月15日(土)
合格者発表日	第1次選考：令和4年10月7日(金) 第2次選考：令和4年11月1日(火) 最終選考：令和5年2月8日(水)
その他	1. 詳細は「総合型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。 2. この総合型選抜に不合格となった場合に備えて、本学及び他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。 3. 経済学部の学校推薦型選抜との併願については、37頁を参照してください。

総合型選抜（昼間主コース）【資格・検定型】

実施学部	経済学部																		
募集人員	【課題図書型】とあわせて 18 名																		
出願要件	次の各号のすべてに該当する者としします。 (1) 次のいずれかに令和 3 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日までに該当する者 ① 高等学校（特別支援学校の高等部及び高等専門学校の 3 年次並びに中等教育学校の後期課程を含む、以下同じ）を卒業（修了）した者又は卒業（修了）見込みの者 ② 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者又は認められる見込みの者 (2) 次の検定試験のいずれかに合格している者 ア. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア(IB)資格 次のいずれかに該当する者 ① IB のディプロマ・プログラムのフルディプロマを取得済みで IB スコアが 32 点以上の者 ② 令和 5 年（2023 年）3 月 31 日までに IB のディプロマ・プログラムのフルディプロマを取得する見込みで IB 見込み点が 32 点以上の者 ※フルディプロマを取得見込みで出願したが、令和 5 年（2023 年）3 月 31 日までに IB スコアが 32 点以上でフルディプロマを取得できない場合は、合格を取り消します。 イ. 全国商業高等学校協会主催検定試験 公益財団法人全国商業高等学校協会主催の下表の検定試験のうち、「英語検定試験を含めて 7 種目以上」に合格の者 <table border="1"> <tr><td>1</td><td>珠算・電卓実務検定試験 1 級（そろばん）</td></tr> <tr><td>2</td><td>珠算・電卓実務検定試験 1 級（電卓）</td></tr> <tr><td>3</td><td>簿記実務検定試験 1 級</td></tr> <tr><td>4</td><td>ビジネス文書実務検定試験 1 級</td></tr> <tr><td>5</td><td>英語検定試験 1 級</td></tr> <tr><td>6</td><td>情報処理検定試験 1 級（プログラミング部門）</td></tr> <tr><td>7</td><td>情報処理検定試験 1 級（ビジネス情報部門）</td></tr> <tr><td>8</td><td>商業経済検定試験 1 級</td></tr> <tr><td>9</td><td>会計実務検定試験 「財務諸表分析」「財務会計」「管理会計」のうち 2 科目以上に合格</td></tr> </table> ウ. 日本商工会議所主催簿記検定試験 日本商工会議所主催簿記検定試験 1 級に合格の者 (3) 合格した場合は、入学することを確約できる者	1	珠算・電卓実務検定試験 1 級（そろばん）	2	珠算・電卓実務検定試験 1 級（電卓）	3	簿記実務検定試験 1 級	4	ビジネス文書実務検定試験 1 級	5	英語検定試験 1 級	6	情報処理検定試験 1 級（プログラミング部門）	7	情報処理検定試験 1 級（ビジネス情報部門）	8	商業経済検定試験 1 級	9	会計実務検定試験 「財務諸表分析」「財務会計」「管理会計」のうち 2 科目以上に合格
1	珠算・電卓実務検定試験 1 級（そろばん）																		
2	珠算・電卓実務検定試験 1 級（電卓）																		
3	簿記実務検定試験 1 級																		
4	ビジネス文書実務検定試験 1 級																		
5	英語検定試験 1 級																		
6	情報処理検定試験 1 級（プログラミング部門）																		
7	情報処理検定試験 1 級（ビジネス情報部門）																		
8	商業経済検定試験 1 級																		
9	会計実務検定試験 「財務諸表分析」「財務会計」「管理会計」のうち 2 科目以上に合格																		
選抜方法等	入学者の選抜は、大学入学共通テストを課さず、出願書類（調査書、志望理由書、活動報告書など）に基づく個人面接を通じて、学位や資格・検定によって得られた知識や技能、それらを得る過程で培われた思考力や判断力などを総合的に評価し選考します。																		
出願期間	令和 4 年 9 月 26 日(月)～9 月 30 日(金)																		
選抜期日	令和 4 年 10 月 15 日(土)																		
合格者発表日	令和 4 年 11 月 1 日(火)																		

そ の 他	1. 詳細は「総合型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。 2. この総合型選抜に不合格となった場合に備えて、本学及び他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。 3. 最終選考合格者は、総合型選抜（夜間主コース）を出願し、受験してもその合格者とはなりません。 4. 経済学部为学校推薦型選抜との併願については、次表「総合型選抜と学校推薦型選抜の併願について」を参照してください。 「総合型選抜と学校推薦型選抜の併願について」 ○：併願可 ×：併願不可				
	併願しようとする選抜 出願した選抜	学 校 推 薦 型 選 抜	総合型選抜 【課題図書型】	総合型選抜 【資格・検定型】	総合型選抜 (夜間主コース)
	学校推薦型選抜		×	○	○
	総合型選抜 【課題図書型】	×		×	○
	総合型選抜 【資格・検定型】	○	×		○
	総合型選抜 (夜間主コース)*	出願しなかつた場合	いずれか1つ○		
	総合型選抜 (夜間主コース)*	出願した場合	×	○	
	※総合型選抜（夜間主コース）を出願した場合、学校推薦型選抜の併願状況により、総合型選抜【課題図書型】と総合型選抜【資格・検定型】の併願の可否が異なりますので注意してください。				
	(注意) 学校推薦型選抜と総合型選抜（昼間主コース）【課題図書型】，【資格・検定型】については「合格した場合入学を確約する者」を出願要件としています。上記併願は、本学経済学部への進学を強く希望する者に対する受験機会の複数提供を目的として実施するものであり、本学他学部や他大学を含めた併願を認めるものではありませんのでご注意ください。				

総合型選抜（夜間主コース）

実施学部	経 済 学 部
募集人員	50 名
出 願 要 件	第 1 種 令和 5 年 4 月 1 日現在の年齢が 22 歳以上で、次のいずれかに該当する者 ① 高等学校（特別支援学校の高等部及び高等専門学校の 3 年次並びに中等教育学校の後期課程を含む、以下同じ）を卒業（修了）した者 ② 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者 ③ 学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者又は認められる見込みの者 第 2 種 上記第 1 種の出願要件のうち①～③のいずれかに該当する者及び令和 5 年 3 月 31 日までに該当する見込みの者
選 抜 方 法 等	第 1 種、第 2 種ともに、大学入学共通テストを課さず、本学部が実施する小論文及び出願書類（調査書、身上記録、志望理由書、活動報告書など）に基づく個人面接を総合して、次のとおり第 1 次選考、第 2 次選考によって判定します。 (1) 第 1 次選考 小論文（英文資料による出題を含む）を課します。 (2) 第 2 次選考 第 1 次選考の合格者に対して、出願書類に関して個人面接を行い、第 1 次選考の成績も併せて総合的に選考します。なお、第 1 種では社会人としてのキャリアや実務経験を考慮します。
出 願 期 間	令和 4 年 11 月 1 日(火)～11 月 4 日(金)
選 抜 期 日	第 1 次選考：令和 4 年 11 月 12 日(土) 第 2 次選考：令和 4 年 11 月 27 日(日)
合格者発表日	第 1 次選考：令和 4 年 11 月 18 日(金) 第 2 次選考：令和 4 年 12 月 2 日(金)
そ の 他	1. 詳細は「総合型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。 2. この総合型選抜に不合格となった場合に備えて、本学及び他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。 3. 経済学部の学校推薦型選抜との併願については、37 頁を参照してください。 4. この総合型選抜の第 2 次選考合格者のうち、総合型選抜（昼間主コース）【課題図書型】を併願し、同選抜最終選考に合格した者は、総合型選抜（夜間主コース）の合格を取り消し、総合型選抜（昼間主コース）【課題図書型】のみの合格者となります。

総合型選抜Ⅰ【データサイエンス講座受講型】

実 施 学 部	デ ー タ サ イ エ ン ス 学 部											
募 集 人 員	15 名											
出 願 要 件	次の各号のすべてに該当する者としてします。 (1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校又は中等教育学校を令和3年4月1日から令和5年3月31日までに、卒業した者又は卒業見込みの者 ② 特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を令和3年4月1日から令和5年3月31日までに、修了した者又は修了見込みの者 (2) 本学部の教育目標に合致する勉強意欲を持ち、かつ幅広い基礎学力を有し、本学部においてデータサイエンスを勉強する強い意志を持つ者 (3) 令和5年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目を受験する者 (4) 合格した場合は、入学することを確約できる者											
選 抜 方 法 等	滋賀大学彦根キャンパスで開講するデータサイエンス講座の受講を必須とする総合型選抜です。講座を受講後、内容に関するレポートの提出を求めます。 (1) 第1次選考 出願書類（調査書、志望理由書），課題レポート及び取得資格※¹を併せて総合的に選考します。 (2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対して，個人面接を行い，第1次選考の結果と併せて総合的に選考します。 (3) 最終選考 第2次選考の合格者のうち，本学部が指定した令和5年度大学入学共通テストの合計得点(900点満点)が550点以上の者を最終合格者としてします。〔別表 11-8 参照〕 ※1 取得資格一覧 <table><tr><th>資 格</th><th>主 催 者</th></tr><tr><td>統計検定（3級以上の合格者）</td><td>一般財団法人 統計質保証推進協会</td></tr><tr><td>品質管理検定（3級以上の合格者）</td><td>一般財団法人 日本規格協会</td></tr><tr><td>情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）</td><td>経済産業省（情報処理推進機構）</td></tr><tr><td>情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)</td><td>公益財団法人 全国商業高等学校協会</td></tr></table>		資 格	主 催 者	統計検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 統計質保証推進協会	品質管理検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 日本規格協会	情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）	経済産業省（情報処理推進機構）	情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)	公益財団法人 全国商業高等学校協会
資 格	主 催 者											
統計検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 統計質保証推進協会											
品質管理検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 日本規格協会											
情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）	経済産業省（情報処理推進機構）											
情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)	公益財団法人 全国商業高等学校協会											
出 願 期 間	令和4年9月1日(木)～9月7日(水)											
選 抜 期 日	第1次選考：令和4年 9月23日(金・祝) 第2次選考：令和4年10月15日(土)											
合 格 者 発 表 日	第1次選考：令和4年10月7日(金) 第2次選考：令和4年11月1日(火) 最 終 選 考：令和5年 2月8日(水)											
そ の 他	1. 詳細は「総合型選抜学生募集要項」によります。なお，出願はインターネット出願のみです。 2. この総合型選抜に不合格となった場合に備えて，本学及び他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。											

総合型選抜Ⅱ【オンライン講座受講型】

実 施 学 部	デ ー タサイエンス学部											
募 集 人 員	15 名											
出 願 要 件	次の各号のすべてに該当する者としします。 (1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校又は中等教育学校を令和3年4月1日から令和5年3月31日までに、卒業した者又は卒業見込みの者 ② 特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を令和3年4月1日から令和5年3月31日までに、修了した者又は修了見込みの者 (2) 本学部の教育目標に合致する勉強意欲を持ち、かつ幅広い基礎学力を有し、本学部においてデータサイエンスを勉強する強い意志を持つ者 (3) 令和5年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目を受験する者 (4) 合格した場合は、入学することを確約できる者											
選 抜 方 法 等	滋賀大学データサイエンス学部が WEB 配信する MOOC(Massive Open Online Courses)教材の視聴^{※1}を必須とする総合型選抜です。出願時に、教材内容に関する課題レポートの提出を求めます。 (1) 第1次選考 出願書類（調査書、志望理由書、課題レポート）、小論文及び取得資格^{※2}を併せて、総合的に選考します。 (2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対して、個人面接を課し、第1次選考の結果と併せて、総合的に選考します。 (3) 最終選考 第2次選考の合格者のうち、本学部が指定した令和5年度大学入学共通テストの合計得点(900点満点)が550点以上の者を最終合格者としします。〔別表 11-8 参照〕 ※1 MOOC(Massive Open Online Courses)教材の視聴 講 座 名：高校生のためのデータサイエンス入門 受講期間：令和4年6月17日(金)から9月17日(土)まで ※2 取得資格一覧 <table><tr><th>資 格</th><th>主 催 者</th></tr><tr><td>統計検定（3級以上の合格者）</td><td>一般財団法人 統計質保証推進協会</td></tr><tr><td>品質管理検定（3級以上の合格者）</td><td>一般財団法人 日本規格協会</td></tr><tr><td>情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）</td><td>経済産業省（情報処理推進機構）</td></tr><tr><td>情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)</td><td>公益財団法人 全国商業高等学校協会</td></tr></table>		資 格	主 催 者	統計検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 統計質保証推進協会	品質管理検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 日本規格協会	情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）	経済産業省（情報処理推進機構）	情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)	公益財団法人 全国商業高等学校協会
資 格	主 催 者											
統計検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 統計質保証推進協会											
品質管理検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 日本規格協会											
情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）	経済産業省（情報処理推進機構）											
情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)	公益財団法人 全国商業高等学校協会											
出 願 期 間	令和4年9月1日(木)～9月7日(水)											
選 抜 期 日	第1次選考：令和4年 9月23日(金・祝) 第2次選考：令和4年 10月15日(土)											
合格者発表日	第1次選考：令和4年 10月7日(金) 第2次選考：令和4年 11月1日(火) 最 終 選 考：令和5年 2月8日(水)											
そ の 他	1. 詳細は「総合型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。 2. この総合型選抜に不合格となった場合に備えて、本学及び他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。											

総合型選抜Ⅲ【実績評価型】

実施学部	データサイエンス学部																								
募集人員	若干名																								
出願要件	次の各号のすべてに該当する者としてします。 (1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校又は中等教育学校を令和3年4月1日から令和5年3月31日までに、卒業した者又は卒業見込みの者 ② 特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を令和3年4月1日から令和5年3月31日までに、修了した者又は修了見込みの者 本学部の教育目標に合致する勉強意欲を持ち、かつ幅広い基礎学力を有し、本学部においてデータサイエンスを勉強する強い意志を持つ者 (3) 令和5年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目を受験する者 (4) 合格した場合は、入学することを確約できる者																								
選抜方法等	全国規模で開催されるデータ分析やプログラミングに関するコンペティション等※¹への参加経験者を対象とした総合型選抜です。出願時に、コンペティション等での実績報告レポートの提出を求めます。 (1) 第1次選考 出願書類（調査書、志望理由書、実績報告レポート）、取得資格※²の結果を併せて、総合的に選考します。 (2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対して、実績報告レポートの内容に関する口頭試問を含む個人面接を行い、第1次選考の結果と併せて総合的に選考します。 (3) 最終選考 第2次選考の合格者のうち、本学部が指定した令和5年度大学入学共通テストの合計得点(900点満点)が550点以上の者を最終合格者としてします。〔別表 11-8 参照〕 ※1 全国規模で開催されるデータ分析やプログラミングに関するコンペティション等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>大会名</th><th>主催者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統計グラフコンクール</td><td>公益財団法人統計情報研究開発センター、総務省</td></tr> <tr> <td>地方創生☆政策アイデアコンテスト</td><td>内閣府地方創生推進室</td></tr> <tr> <td>データビジネス創造コンテスト</td><td>慶應義塾大学 SFC 研究所</td></tr> <tr> <td>スーパーサイエンスハイスクール(SSH)成果発表会</td><td></td></tr> <tr> <td>マスマフェスタ</td><td>全国数学研究発表会</td></tr> <tr> <td>スポーツデータ解析コンペティション</td><td>日本統計学会スポーツ統計分科会</td></tr> </tbody> </table> (注) 上記はあくまで例であり、他のコンペティション等でも構いません。 ※2 取得資格一覧 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格</th><th>主催者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統計検定（3級以上の合格者）</td><td>一般財団法人 統計質保証推進協会</td></tr> <tr> <td>品質管理検定（3級以上の合格者）</td><td>一般財団法人 日本規格協会</td></tr> <tr> <td>情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）</td><td>経済産業省（情報処理推進機構）</td></tr> <tr> <td>情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)</td><td>公益財団法人 全国商業高等学校協会</td></tr> </tbody> </table>	大会名	主催者	統計グラフコンクール	公益財団法人統計情報研究開発センター、総務省	地方創生☆政策アイデアコンテスト	内閣府地方創生推進室	データビジネス創造コンテスト	慶應義塾大学 SFC 研究所	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)成果発表会		マスマフェスタ	全国数学研究発表会	スポーツデータ解析コンペティション	日本統計学会スポーツ統計分科会	資格	主催者	統計検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 統計質保証推進協会	品質管理検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 日本規格協会	情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）	経済産業省（情報処理推進機構）	情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)	公益財団法人 全国商業高等学校協会
大会名	主催者																								
統計グラフコンクール	公益財団法人統計情報研究開発センター、総務省																								
地方創生☆政策アイデアコンテスト	内閣府地方創生推進室																								
データビジネス創造コンテスト	慶應義塾大学 SFC 研究所																								
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)成果発表会																									
マスマフェスタ	全国数学研究発表会																								
スポーツデータ解析コンペティション	日本統計学会スポーツ統計分科会																								
資格	主催者																								
統計検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 統計質保証推進協会																								
品質管理検定（3級以上の合格者）	一般財団法人 日本規格協会																								
情報処理技術者試験（各試験区分のいずれかの合格者）	経済産業省（情報処理推進機構）																								
情報処理検定試験(プログラミング部門又はビジネス情報部門1級の合格者)	公益財団法人 全国商業高等学校協会																								
出願期間	令和4年9月1日(木)～9月7日(水)																								
選抜期日	第1次選考：書類選考 第2次選考：令和4年10月15日(土)																								
合格者発表日	第1次選考：令和4年10月7日(金) 第2次選考：令和4年11月1日(火) 最終選考：令和5年2月8日(水)																								
その他	1. 詳細は「総合型選抜学生募集要項」によります。なお、出願はインターネット出願のみです。 2. この総合型選抜に不合格となった場合に備えて、本学及び他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。																								

総合型選抜 最終選考について 経済学部及びデータサイエンス学部

経済学部（昼間主コース）【課題図書型】及び、データサイエンス学部におけるすべての総合型選抜では、令和5年度大学入学共通テストの受験が必要となります。共通テストの受験を要する教科・科目及び配点は両学部ともに次のとおりです。

共通テストの受験を要する教科・科目 【5教科7科目又は6教科7科目】

国 語	国語		1 科目
数 学	数Ⅰ・数A		1 科目
	数Ⅱ・数B，簿，情報	から 1	1 科目
地理歴史	世A，世B，日A，日B， 地理A，地理B	から 1 又は 2	合計 3 科目
公 民	現社，倫，政経，倫・政経		
理 科	物，化，生，地，基礎 2 科目	から 1 又は 2	
外 国 語	英，独，仏，中，韓	から 1	1 科目

- (注) 1. 基礎 2 科目は、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎のうち 2 科目の選択を表します。
2. 地理歴史、公民、理科において、「物理」と「物理基礎」など、同一名称を含む科目の組み合わせで 2 科目を選択することはできません。
3. 数学の「簿記・会計」，「情報関係基礎」を選択できる者は、普通科・理数科を除く高等学校においてこれらの科目を履修した者に限ります。

共通テストの配点

国語	外国語	数学	地理歴史	公民	理科	合計
200	200	200	* 300 (100×3)			900

- (注) 1. * は、選択教科を示し、4 科目受験した場合は、「地理歴史、公民の第 1 解答科目」，「理科の第 1 解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第 2 解答科目から高得点の 1 科目」の合計 3 科目の成績を用います。
なお、「理科」で基礎 2 科目を選択した場合は、「地理歴史、公民の第 1 解答科目」，「理科の第 1 解答科目と基礎 2 科目から高得点の科目」及び「地理歴史、公民と理科の上記で用いなかった科目から高得点の 1 科目」の合計 3 科目の成績を用います。
2. 大学入学共通テスト外国語の「英語」の配点には、リスニングの成績を含み、その利用方法については次のとおりとします。
リーディング（100 点満点）とリスニング（100 点満点）の計 200 点満点を学部ごとに次の表の値をかけて換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。

学 部	リーディング（100 点）	リスニング（100 点）
経 済 学 部	2	1
データサイエンス学部	4	1

リスニングを免除された者は、リーディング（100 点）を 200 点満点に換算し、さらに各学部で利用する配点に換算します。
「英語」以外を選択した場合は、筆記（200 点満点）の成績を各学部で利用する配点に換算します。

帰 国 生 徒 選 抜

実 施 学 部	教 育 学 部
募 集 人 員	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程 若 干 名
出 願 要 件	日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等の事情により外国の学校教育を受けている者（保護者が先に日本に帰国した後、引き続き単身で在留した者又は在留している者を含む）のうち、次のいずれかに該当する者。ただし、(1)又は(2)にあっては、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、外国において教育を受けた期間とはみなしません。 (1) 外国において、学校教育における 12 年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を 2021 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者で、外国において最終学年を含め 2 学年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 (2) 外国において、2 学年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けた後、学校教育における 12 年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を中途退学し、引き続き日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）の第 3 学年に編入学を認められた者で、令和 4 年 3 月に卒業した者又は令和 5 年 3 月に卒業見込みの者 (3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を 2021 年又は 2022 年に授与された者 (4) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を取得し、一般的大学入学資格証明書を 2021 年又は 2022 年に授与された者 (5) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を取得し、バカロレア資格証書を 2021 年又は 2022 年に授与された者 (6) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において、大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCEA レベル）資格を 2021 年又は 2022 年に授与された者
選 抜 方 法 等	個別学力検査及び大学入学共通テストを免除し、専門課題及び面接の成績と出願書類を総合して判定します。
出 願 期 間	令和 4 年 11 月 1 日(火)～11 月 4 日(金)
選 抜 期 日	令和 4 年 11 月 19 日(土)
合 格 者 発 表 日	令和 4 年 12 月 9 日(金)
そ の 他	1. 詳細は「帰国生徒選抜学生募集要項」によります。 2. 実技検査の概要については 47 頁を参照してください。

社 会 人 選 抜

実 施 学 部	教 育 学 部
募 集 人 員	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程 若 干 名
出 願 要 件	令和 5 年 4 月 1 日現在の満年齢が 23 歳に達した社会人で，次の各号のいずれかに該当する者 (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を卒業した者 (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第 150 条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
選 抜 方 法 等	個別学力検査及び大学入学共通テストを免除し，専門課題及び面接を課し，その成績と出願書類を総合して判定します。
出 願 期 間	令和 4 年 11 月 1 日(火)～11 月 4 日(金)
選 抜 期 日	令和 4 年 11 月 19 日(土)
合 格 者 発 表 日	令和 4 年 12 月 9 日(金)
そ の 他	1．詳細は「社会人選抜学生募集要項」によります。なお，出願はインターネット出願のみです。 2．実技検査の概要については 47 頁を参照してください。

私費外国人留学生選抜

実施学部	教 育 学 部
募集人員	若干名
出 願 要 件	次のすべてに該当する者 (1) 日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く） (2) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者及び 2023 年 3 月 31 日までに修了見込みの者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（次の各号の一に該当する者を含む） ① スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者 ② フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者 ③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者 ④ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCEA レベル）資格を有する者 (3) 出入国管理及び難民認定法において大学入学資格に支障のない在留資格を有する者及び取得できる見込みの者 (4) 日本学生支援機構が実施する「2021 年度第 1 回又は第 2 回日本留学試験」又は「2022 年度第 1 回又は第 2 回日本留学試験」で本学部が指定する教科・科目を受験した者
選抜方法等	次に掲げる「2021 年度日本留学試験」又は「2022 年度日本留学試験」の結果（(注)1. 参照）、本学部が実施する口述試験の結果及び出願書類を総合して判定します。 (注) 1. 2021 年 6 月、11 月、2022 年 6 月、11 月実施の試験のうち 2022 年 11 月を含めて複数を受験している場合は、受験者の届け出によりいずれかの試験結果を採用します。該当者には本学の試験当日に「採用成績届出書」を交付しますのでこれに記入のうえ、2023 年 1 月 5 日(木)までに必ず届け出てください。 なお、もし同日までに届け出がない場合は、直近の成績を採用するものとします。 2. 「日本語」の成績は、「記述」・「読解」・「聴解・聴読解」の 3 領域とします。 3. 物理・化学・生物の 3 科目の中から 2 科目を選択してください。
出 願 期 間	令和 4 年 10 月 21 日(金)～10 月 26 日(水)
選 抜 期 日	令和 4 年 11 月 30 日(水)
合格者発表日	令和 5 年 1 月 20 日(金)
そ の 他	詳細は「私費外国人留学生選抜学生募集要項」によります。

私費外国人留学生選抜

実 施 学 部	経 済 学 部																						
募 集 人 員	10 名																						
出 願 要 件	次の（１）から（３）までのすべてに該当し、かつ下記AからCまでのいずれかに該当する者 （１） 日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く） （２） 日本学生支援機構が実施する「2021 年度第 1 回又は第 2 回日本留学試験」又は「2022 年度第 1 回又は第 2 回日本留学試験」で本学部が指定する教科・科目を受験した者 （３） 出入国管理及び難民認定法において大学入学資格に支障のない在留資格を有する者及び取得できる見込みの者 A. 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者及び 2023 年 3 月 31 日までに修了見込みの者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの B. 次の①から④までのいずれかに該当する者 ① スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者 ② フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者 ③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者 ④ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCEA レベル）資格を有する者 C. 日本の学校教育制度における修学期間が 3 年以内の者で、次の①から⑤までのいずれかに該当する者 ① 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）を 2023 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者 ② 高等専門学校の 3 年次を 2023 年 3 月までに修了又は修了見込みの者 ③ 文部科学大臣の指定を受けた修業年限 3 年以上の専修学校高等課程の学科を文部科学大臣が定める日以降に修了した者又は 2023 年 3 月修了見込みの者 ④ 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）又は 2023 年 3 月 31 日までに合格見込みの者 ⑤ 高等学校卒業程度認定審査規則により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定審査に合格した者又は 2023 年 3 月 31 日までに合格見込みの者																						
選 抜 方 法 等	次に掲げる「2021 年度日本留学試験」又は「2022 年度日本留学試験」の結果（（注）①参照）、本学部が実施する学力試験等の結果、及び最終卒業学校の成績証明書等を総合して判定します。 【日本留学試験指定教科・科目・総点等】 <table><tr><td>教科・科目</td><td>総 点</td><td>出題言語</td></tr><tr><td>日本語(聴解・聴読解)</td><td rowspan="4">920 点 (注) ③参照</td><td rowspan="4">日本語及び英語</td></tr><tr><td>日本語(記述)</td></tr><tr><td>理科（（注）②参照）又は総合科目</td></tr><tr><td>数学（コース 1 又はコース 2）</td></tr></table> (注) ① 2021 年 6 月, 11 月, 2022 年 6 月, 11 月実施の試験のうち 2022 年 11 月を含めて複数を受験している場合は、受験者の届け出によりいずれかの試験結果を採用します。詳細は「私費外国人留学生選抜学生募集要項」をご参照ください。 ② 「理科」を選択する場合は、物理・化学・生物の 3 科目の中から 2 科目を選択してください。 ③ 総点は「日本語(記述)」の得点を 120 点満点に換算します。 【本学部が実施する学力試験・配点等】 <table><tr><td>教 科</td><td>科 目 等</td><td>配点</td><td>総点</td></tr><tr><td>外国語</td><td>コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ</td><td>400 点</td><td rowspan="2">800 点</td></tr><tr><td>面接</td><td></td><td>400 点</td></tr></table>			教科・科目	総 点	出題言語	日本語(聴解・聴読解)	920 点 (注) ③参照	日本語及び英語	日本語(記述)	理科（（注）②参照）又は総合科目	数学（コース 1 又はコース 2）	教 科	科 目 等	配点	総点	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ	400 点	800 点	面接		400 点
教科・科目	総 点	出題言語																					
日本語(聴解・聴読解)	920 点 (注) ③参照	日本語及び英語																					
日本語(記述)																							
理科（（注）②参照）又は総合科目																							
数学（コース 1 又はコース 2）																							
教 科	科 目 等	配点	総点																				
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ	400 点	800 点																				
面接		400 点																					
出 願 期 間	令和 4 年 10 月 21 日(金)～10 月 26 日(水)																						
選 抜 期 日	令和 4 年 12 月 3 日(土)																						
合格者発表日	令和 5 年 1 月 20 日(金)																						
そ の 他	詳細は「私費外国人留学生選抜学生募集要項」によります。																						

教育学部学校推薦型選抜（一般）・帰国生徒選抜・社会人選抜で課する実技検査の概要

		実 施 検 査 項 目 等	
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	初等教育コース 初等教科専攻 国語専攻	書道実技（※社会人選抜を除く）以下の内容について出題します。 ○漢字（楷書，行書），仮名の基礎技法に関するもの ○漢字，漢字・仮名交じりの書の創作に関するもの	
	初等教育コース 初等教科専攻 音楽専修	次の共通種目と選択種目について検査を実施します。	
		共通種目	①音楽の基礎 （一部論述形式） ②コールユーブンゲン
		選択種目 （A，B からひとつ選択）	基礎的な内容の楽典 （ピアノ演奏による 8～12 小節程度の旋律聴音を含む） 【全訳 Chortübungen 第 1 巻】より Nr. 39～Nr. 85 から，当日 1 曲指定する。 （Nr. 42, Nr. 44, Nr. 46, Nr. 47, Nr. 72 は除く） 以下の A または B からひとつ選択してください。 A. ピアノと声楽 （イ）ピアノ独奏 ソナチネ，ソナタから，任意の 1 曲の第 1 楽章又は終楽章（ただし，緩徐なものは除く）を暗譜で，繰り返しは省略して演奏してください。 （ロ）声楽独唱 イタリア古典歌曲より任意の 1 曲を暗譜で演奏し，歌詞は原語とします。 （注）「独唱伴奏譜」（氏名記入）を入学志願票とともに 1 部提出してください。 B. ピアノと鍵盤楽器以外の器楽 （イ）ピアノ独奏 ソナチネ，ソナタから，任意の 1 曲の第 1 楽章又は終楽章（ただし，緩徐なものは除く）を暗譜で，繰り返しは省略して演奏してください。 （ロ）鍵盤楽器以外の器楽 5 分以内の任意の独奏曲（練習曲を含む）とします。繰り返しなし，無伴奏で演奏してください。楽器の範囲は以下のとおりとします。 フルート，オーボエ，クラリネット，サキソフォン，バスーン，ホルン，トランペット，トロンボーン，ユーフォニアム，チューバ，バイオリン，ビオラ，チェロ，リコーダー，アコースティックギター，三味線，箏 （注）1. 「鍵盤楽器以外の器楽の楽譜」（氏名記入）を入学志願票とともに 1 部提出してください。 2. 楽器は原則として持参してください。 3. 上記に該当しない楽器で受験を希望する場合には，教育学部 入学試験係に問い合わせてください。
	初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専修	次の項目について検査を実施します。制作時間は 3 時間です。 「鉛筆静物デッサン」 注 検査当日，鉛筆デッサン用具一式を持参してください。 （画板は本学で用意します。はかり棒，デッサンスケールの使用可）	
	初等教育コース 初等英語専攻	英語実技 以下の項目について検査を実施します。 「英文音読」 英語のパッセージ（一節）を黙読し，次に音読してください。 「内容理解とその伝達」 パッセージの内容についての質問にできるだけ英語で答えてください。	

V 受験上及び修学上の配慮に関する事前相談

本学に入学を志望する者で、障害等により、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある者は、以下により受験上等の配慮申請書を提出し相談してください。

なお、期限後に不慮の事故等により受験上及び修学上の配慮が必要となった場合には、その時点で速やかに電話等により相談してください。

1. 受験上の配慮申請書の記載内容

- ア. 志願者の氏名、住所、連絡先電話番号
- イ. 出身学校名
- ウ. 志願する学部、選抜区分
- エ. 障害等の状況（現に治療中の者は、医師の診断書（コピー可）を添付すること）
- オ. 受験上の配慮を希望する事項（大学入試センターから「受験上の配慮事項決定通知書」の交付を受けた者は、その写しを添付すること）
- カ. 修学上の配慮を希望する事項
- キ. 出身学校でとられていた配慮内容
- ク. 日常生活の状況

2. 配慮申請書の提出期限 一般選抜 令和5年1月17日(火)まで

＊学校推薦型選抜、総合型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜については「学生募集要項」で確認してください。

3. 書類提出先

〒522 - 8522

彦根市馬場一丁目1番1号

滋賀大学入試課入学試験係

※ 配慮申請書は A4 サイズ（日本工業規格）の用紙に上記の内容を記載したもの（様式は任意）を作成、または、本学ホームページ(<https://www.shiga-u.ac.jp/>)「トップページ」>「入学案内」>「受験案内」内の「受験上等の配慮事前相談」に掲載の様式データファイルをダウンロードのうえ作成してください。

VI 入学料・授業料について

【教育学部】 【経済学部昼間主コース】 【データサイエンス学部】

1. 入学料 282,000 円 2. 授業料 267,900 円(前期分) [年額 535,800 円]

【経済学部夜間主コース】

1. 入学料 141,000 円 2. 授業料 133,950 円(前期分) [年額 267,900 円]

(注) 上記の金額は予定です。改定される場合があります。

VII 入学試験情報の開示について

滋賀大学においては、次の入試情報について開示します。ただし、入試の適正な実施や個人情報保護等のため不開示部分があります。

- ◎ 志願者数・受験者数・合格者数・試験問題・追加合格者数・入学者数・入学辞退者数
- ◎ 出題方針
- ◎ 可否判定基準
- ◎ 合格最高・最低点及び合格者の平均点等の合格者の成績についての資料
- ◎ 入試実施組織
- ◎ 正解・解答例
- ◎ 試験成績（本人からの請求に限る）

詳細については、おって「学生募集要項」に記載しますので、参照してください。

Ⅷ 学生募集要項の発表及び請求方法

1. 発表時期

令和5年度の募集人員、出願方法、個別学力検査等の実施内容、その他入学に要する経費等必要な事項を記載した「学生募集要項」の発表時期は、次のとおりです。

- | | |
|----------------------------|-------|
| ① 一般選抜学生募集要項（インターネット出願） | 11月上旬 |
| ② 総合型選抜学生募集要項（インターネット出願） | 7月下旬 |
| ③ 学校推薦型選抜学生募集要項（インターネット出願） | 9月上旬 |
| ④ 帰国生徒選抜学生募集要項 | 9月上旬 |
| ⑤ 社会人選抜学生募集要項（インターネット出願） | 9月上旬 |
| ⑥ 私費外国人留学生選抜学生募集要項 | 7月下旬 |

2. 請求方法

① 滋賀大学のホームページから請求する場合

本学のホームページから直接資料請求ができます。

なお、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜及び社会人選抜については、インターネット出願（インターネットによる志願者登録及び出願書類の提出）のみとなりますので、本学ホームページより直接資料をダウンロードしてください。

詳しくは、巻末の「入試情報サービス」をご覧ください。

② テレメール（インターネット）で請求する場合

- ・ 帰国生徒選抜学生募集要項（受付期限：令和4年10月24日まで）
- ・ 私費外国人留学生選抜学生募集要項（受付期限：令和4年10月14日まで）



<https://telemail.jp>

QRコード®

※QRコード®からアクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。



希望する資料請求番号（6桁）を入力してください。

資 料 名	資料請求番号	料金（予定）
大学案内	5 6 4 2 9 2	215 円
帰国生徒選抜学生募集要項	5 8 4 4 6 2	180 円
帰国生徒選抜学生募集要項と大学案内	5 4 4 4 6 2	250 円
私費外国人留学生選抜学生募集要項	5 8 4 4 9 2	180 円
私費外国人留学生選抜学生募集要項と大学案内	5 4 4 4 8 2	250 円

あとはガイダンスに従って登録してください。

＊ 発送開始日以前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日に一斉に発送します。

＊ 資料は通常、発送日からおおむね3～5日でお届けできます。また、お届け先地域や郵便事情によってはお届けに1週間程度要する場合があります。なお、17時30分までの受付は当日発送、17時30分以降の受付は翌日発送となります。

- * 随時発送の資料が1週間以上（予約受付の資料は発送開始日から1週間以上）経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。
- * 料金のお支払いは資料到着後の後払いです。お届けする資料に同封の料金支払い用紙をご確認のうえ、資料到着後2週間以内に表示料金をお支払いください。なお、手数料が別途必要です。（コンビニ払いは118円。スマホアプリの請求書支払い（LINE Pay, Pay Pay, au Pay）は118円。ケータイ払いは50円。クレジットカード払いは50円）また、コンビニ払い・ケータイ払い・クレジットカード払いは、1回分の手数料で、複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。
- * 料金等は変更になる場合があります。

→上記②請求方法についてのお問い合わせは下記へお願いします。

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (9時30分～18時)
--

③ 滋賀大学にて直接受領する場合

大学案内、帰国生徒選抜学生募集要項、私費外国人留学生選抜学生募集要項に限り、月曜日から金曜日までの各日9時から17時までの間に滋賀大学彦根キャンパス（入試課）又は大津キャンパス（教育学部入学試験係）で直接受領することもできます。

なお、祝日等及び月曜日から金曜日までの各日9時から17時以外については、両キャンパスの守衛所（正門横）において直接受領することもできます。

④ 滋賀大学大津サテライトプラザで直接受領する場合

大学案内、帰国生徒選抜学生募集要項、私費外国人留学生選抜学生募集要項に限り、滋賀大学大津サテライトプラザ（JR大津駅前 日本生命大津ビル4階）で直接受領することもできます。（月・火・木・金曜日の12時から18時（祝日、本学の夏季一斉及び年末年始休業期間を除く））

教育学部のアドミッション・ポリシー（学生受け入れ方針）

教育学部の理念

（１） 学部の独自性

本学部は滋賀県師範学校をおもな母体として設置され、その前身は明治８年にさかのぼります。以来今日まで、一貫して滋賀県を中心に学校教育を担う人材を輩出してきました。常に地域の教育の中核として、附属学校園や地域の教育機関との連携のもとに、実践的指導力の養成に力を注いでいます。

教育に対する期待がますます増大している現代において、特色ある教育学部の創出を目指します。そのために学校教育の現場で活躍する教員を養成するとともに、地域教育への貢献を組織的に推進するための教育の拠点としての機能を一層強化します。さらに、琵琶湖の環境、教育における国際化や情報活用に関する特色ある学際的・総合的研究を推進します。

（２） 学部理念

現代社会はさまざまな問題を抱えながら、目まぐるしい変化を続けています。私たちの学部は、現代社会の今日的な諸問題に積極的に対応できると同時に、問題解決能力をもった人材養成をめざしています。また、人間形成にも重きをおき、学生一人ひとりの知的教養を磨き、芸術・文化・自然などに対する感受性を養うとともに、ひとに対して深い共感と理解を示し、専門知識に正しく基礎づけられた豊かな人格形成を目標としています。

求める学生像

私たちの学部では、次のような人を求めています。

- 変化の激しい現代において、よりよい社会の創造に貢献できる教師をめざす人
- 学校教育に高い関心を持ち、教育の諸課題に自ら積極的に取り組む意欲や熱意のある人
- 教師をめざすために必要な幅広い基礎的知識、論理的思考力・コミュニケーション能力、豊かな感受性、他者に共感する心を備えた人

入学者選抜の基本方針

本学部の教育理念・目標に合致する学生を選抜するために、さまざまな評価の観点から多様な入学者選抜を実施し、志願者の能力や資質を総合的に評価し、判定します。

各選抜方法の趣旨

本学部では、一般選抜（前期日程・後期日程）のほかに、学校推薦型選抜、総合型選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、帰国生徒選抜という多様な入学者選抜を行っています。

（１） 一般選抜

前期日程では、大学入学共通テストの成績と、個別学力検査（文系型、理系型、面接型、実技型）の成績を総合的に評価し、可否を判定します。

後期日程では、大学入学共通テストの成績と、小論文の成績を総合的に評価し、可否を判定します。

（２） 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜には一般推薦と地域推薦があり、学力試験でははかれない側面（たとえば、志望動機、入学後の学習意欲、本学部の教育理念への適合性など）に重点をおいた入学者選抜を行

います。一般推薦は、学校教育に高い関心をもち、学校教員など地域の教育に貢献できる人材を求めます。地域推薦は、滋賀県内の高等学校に在籍する生徒を対象として、将来滋賀県で学校教員を目指す人材を求めます。どちらの学校推薦型選抜も大学入学共通テストと個別学力検査を課さず、高等学校長からの推薦書に基づき、調査書、小論文、面接、専門課題などの成績を総合して可否を判定します。

(3) 総合型選抜

本学部の教育において重視する「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働する力」を総合的に評価するため、総合型選抜を実施します。本選抜では、学校教員になろうとする強い意欲に加えて、論理的に考えて判断し表現する力、対話や議論をする力に重点をおきます。大学入学共通テストは課さず、小論文、ポスター発表、集団討論の成績に基づいて可否を判定します。学業成績が定められた基準を満たしていること、及び学校教員になろうとする強い意欲をもっていることを確認するために、「調査書」「志望理由書」の提出を求めます。

(4) 社会人選抜

本学部では、社会人の大学教育への期待に応えるために、社会人を受け入れます。社会人選抜では、大学入学共通テストを課さず、専門課題及び面接の成績と出願書類を総合して可否を判定します。

(5) 私費外国人留学生選抜

私費外国人留学生選抜では、独立行政法人日本学生支援機構が実施している「日本留学試験」の指定する教科・科目の成績、本学部が実施する口述試験の成績及び出願書類を総合して可否を判定します。

(6) 帰国生徒選抜

帰国生徒選抜では、専門課題及び面接などの成績を総合して可否を判定します。

経済学部のアドミッション・ポリシー（学生受け入れ方針）

経済学部の理念

（１）建学の理念と誇りうる独自性

本学部の前身、彦根高等商業学校は、建学の精神として「士魂商才」を謳い、それに対し養成すべき人材としての相互扶助・社会奉仕的精神をもった商業的技術の専門家という独特の意味を付与しました。それは、地域社会への奉仕・貢献を前面に出し利益追求を副次的とする近江商人の精神と大きく合致するものでした。こうして、幕末期彦根藩が示していた視野の開明性・先見性と教養重視の伝統とも相俟って、彦根の地に、高い人格と豊かな教養を備え地域社会にも貢献できる専門職業人の養成の場が創り出されました。

そうした彦根高商の伝統を受け継いで、第二次世界大戦後、発足した滋賀大学経済学部は、経済界等に多くの優れた人材を輩出しながら、社会と地域の要請に応じて大きな発展を遂げてきました。そして、古来より近畿・東海・北陸の経済的文化的交流点であり、琵琶湖をかかえ環境意識の高い滋賀県に立地する本学部は、国立大学経済学部として、多様性を内包する３専攻を有し全国最大規模の陣容を整えていること、国宝「菅浦文書」をはじめ中世社会に関する我が国第一級の史料や近世近代の古文書群を収蔵する附属史料館が近江商人・近江地域史研究の拠点になっていること等の独自性を備えるに至っています。

（２）学部の教育理念

滋賀大学経済学部は、これまでの実績と伝統に安住することなく、独自の工夫をこらした改革を進め、急激に変化する社会と地域の要請に応え、有為の人材の養成と高次の知識創造・学術文化に資する高等教育機関としての発展を目指しています。本学部は、建学の精神を現代に活かした教育理念として「国際的な視野をもち、環境に配慮しつつ地域社会にも貢献できる、個性ある専門職業人の養成（グローバル・スペシャリストの養成）」を掲げ、その資質としての「意識・知識・見識」の涵養とそれを基礎にした課題探求力の育成に取り組んでいます。

求める学生像

滋賀大学経済学部は、学部の教育理念・目標に基づき、次のような人を求めています。

- 経済学部で学ぶために必要な基礎的知識、論理的思考力と表現力、コミュニケーション能力をもつ人
- 経済学部における知の探求と創造に意欲と能力のある人
- 意識・知識・見識を身につけた専門職業人を目指す人
- 国際社会・地域社会の課題の発見とその解決に主体的に取り組む意欲のある人

本学部の入学者選抜の基本方針

本学部の教育理念・目標に適合する学生を選抜するために、多様な入学者選抜を実施し、多面的な評価尺度を用いて志願者の能力・資質を適切に評価・判定します。

各選抜方法の趣旨

経済学部では、一般選抜（前期日程・後期日程）の他に、学校推薦型選抜（Ａ推薦・Ｂ推薦）、総合型選抜、私費外国人留学生選抜、３年次編入学試験という多様な入学者選抜を行い、様々な評価尺度を用いて、本学部の教育目標達成のために必要な基礎的能力や資質を備えた人材を受け

入れることをめざしています。

(1) 一般選抜（昼間主コース）

本学部では一般選抜（昼間主コース）の前期日程、後期日程の募集定員がそれぞれ 172 名、150 名であり、後期日程にも多くの定員を当てているのが特徴です。

また、前期・後期の両日程において、広範囲にわたる基礎学力の修得度をみるために共通テストを 5 教科 7 科目（または 6 教科 7 科目）利用する採点方式とともに、本学部での学習の核となる能力を示す科目における高い習熟度をみるための共通テスト 3 教科型（国語／外国語／数学または地歴・公民から 1 科目）の採点方式を併用して順位を決定する選抜制度を導入しています。

個別学力検査においては、前期日程、後期日程ともに、英語と国語、あるいは英語と数学の 2 教科の試験を課して、本学部で学ぶために必要な基礎的な能力を評価します。

英語・国語では、読解力や表現力に加えて、論理的思考力・コミュニケーション能力の基本が問われます。数学では、基本的な数学的知識と数理的・論理的思考力が問われます。

本学部は、「共通テスト 5 教科 7 科目＋個別学力検査」の採点方式に加えて、「共通テスト 3 教科＋個別学力検査」の採点方式を併用することによって、多様な志願者に受験機会を保証するとともに、共通テストを 5 教科 7 科目以上受験した志願者についても、基礎的な能力に特化したもう一つの尺度を併用して多角的に評価することにより、高い潜在能力を持ちながら多数の科目の合計点だけでは十分に評価され難い個性的な人材も受け入れることをめざしています。

(2) 学校推薦型選抜

本学部の学校推薦型選抜は、高等学校普通科出身者を主な対象とする A 推薦（募集人員 40 名）と、商業科、総合学科等の出身者を対象とする B 推薦（募集人員 20 名）の 2 区分により行っています（出願資格等の詳細については 33 頁「別表 10-2」・『学校推薦型選抜学生募集要項』を参照してください）。経済社会問題に深い興味を抱き、本学への進学を特に強く希望する志願者を対象に、「小論文」を課し、出身高等学校長の推薦書・調査書（B 推薦においては取得資格も含む）等を総合して第 1 次選考を行います。その合格者に対して第 2 次選考の「面接」で、活動報告書・エッセイ等に関して質疑応答を行い、第 1 次選考の結果と総合して可否を判定します。

「小論文」では、資料（英文資料も含む）の読解力、課題に対する論理的思考力、主張の的確性、文章の表現力等を評価します。

学校推薦型選抜では、経済・社会に対する幅広い知識とともに、特定の分野や問題に深い興味や関心を持ち、主体的・創造的に学ぶ意欲の高い学生を求めています。地歴・公民や理科などの学習、総合的学習時間、さらにはボランティア活動等を含めた課外活動を通じて、自分の興味や関心を問い直し、その中で自身の体験や考えを活動報告書やエッセイとして表現できる能力が問われます。

(3) 総合型選抜

本学部の総合型選抜には、昼間主コースの課題図書型、資格・検定型と、夜間主コースがあります。

課題図書型では、課題図書や他者の意見を理解する力、自分の意見を表現する力に重点を置き、高い主体性や表現力・コミュニケーション能力を評価し選抜します。

資格・検定型では、資格・検定によって得られた知識や技能、それらを得る過程で培われた思考力や判断力等を、出願書類に基づく個人面接を通じて総合的に評価し選抜します。

夜間主コースでは、「小論文」及び出願書類（「志望理由書」「活動報告書」など）に関する面接に基づき、理解力、思考力、主体性などを総合的に評価し選抜します。

(4) 私費外国人留学生選抜

独立行政法人「日本学生支援機構」が実施している「日本留学試験」の「日本語」、「日本語・記述」、「理科又は総合科目」、「数学（コース1又はコース2）」の成績と、本学部が実施する学力試験の「英語」、「面接」等の成績を総合して合否を判定します。

「英語」の試験では、本学部での学習に必要な基本的な文法力、英文理解力、語彙力、英文表現力を評価します。「面接」では、日本語による会話・コミュニケーション能力等についても評価します。

(5) 3年次編入学試験

他大学、短大、高等専門学校、専修学校等からの編入学生を受け入れるための試験で、「TOEIC 公開テスト(Listening & Reading)」の成績と「面接」及び提出書類等の成績を総合して合否を判定します。

データサイエンス学部のアドミッション・ポリシー（学生受け入れ方針）

データサイエンス学部の理念

（１）設置の目的と育成する人材像

近年、情報通信技術の進展によって、社会の様々な分野でビッグデータと言われる多種多様で膨大な量のデータが集積され、その活用による付加価値の創出が大きな課題となっています。このような社会的な要請に応えるため、データサイエンスに焦点を合わせた日本初の本格的な学部を平成 29 年 4 月に設置しました。本学部では、データサイエンスの専門知識やスキルといった理系的基礎の上に、データ利活用の現場で相互補完的な専門性を有する仲間とコミュニケーションを図りながら、データから価値のある情報を取り出し、それを意思決定に活かす能力を備えた文理融合型の人材を育成します。

（２）教育課程の特色

本学部の教育課程では、統計や情報の基礎力を身に付けるだけでなく、実際にデータの解析結果を意思決定に活かして、価値創造できる力を高めることを目的としています。このような目的を達成するため、1，2 年次には統計学と情報工学の基礎的内容を身に付け、様々な応用分野におけるデータ分析の実例を学びます。それらの基礎をもとに、3，4 年次では各種領域科学におけるデータ分析手法を学び、実際のデータを使った演習を通して価値創造の実践経験を積み重ねていきます。それに加え、各自の興味に応じ、様々な統計手法の数理的内容をより深く学んだり、より高度な情報処理技術を身に付けたり、より多くの分野における問題解決スキルを磨いたりできるカリキュラムを用意しています。

データサイエンス学部が求める学生

データサイエンスの応用領域は、自然科学分野ばかりではなく、むしろ人文・社会科学系分野が多く含まれるため、文理両方の素養を身に付ける必要があります。したがって、本学部では理系文系を問わず、次のような資質をもつ人の入学を求めています。

- 高等学校の様々な教科・科目の学習を通して、バランスよく、文・理の基礎的知識を身に付けてきた、潜在性豊かな人
- コミュニケーション能力を有し、多様な人々と協働して、理想の未来に向けた価値創造に貢献したい人
- 物事を筋道立てて考えることができ、人間社会や自然の現象を数理的に分析することに関心のある人
- 情報ネットワーク、プログラミング、コンピュータグラフィックス（視覚化）などに関心がある人

本学部の入学者選抜の基本方針

本学部の教育理念・目標に適合する学生を選抜するために、多様な入学者選抜を実施し、多面的な評価尺度を用いて志願者の能力・資質を適切に評価・判定します。教育課程の特色や求める学生像の点から、すべての入学者選抜において、文・理両面の総合的な基礎学力の修得度をみるために大学入学共通テストを 5 教科 7 科目あるいは 6 教科 7 科目利用する採点方式を取り入れます。

各選抜方法の趣旨

データサイエンス学部では一般選抜（前期日程・後期日程）の他に総合型選抜を行い、多様な評価尺度を用いて、本学部の教育目標達成のために必要な基礎的能力や資質を備えた人材を受け入れることを目指しています。

（１）一般選抜

前期・後期の両日程において、大学入学共通テストの成績と個別学力検査の成績を総合的に評価し、可否を判定します。

前期日程の個別学力検査では、「数学」と「英語」の２教科を課して、本学部の教育カリキュラムで学ぶために必要な基礎的・基本的な知識・技能を重視して評価します。

後期日程の個別学力検査では、「総合問題」と「英語」の２教科を課して、課題解決に向けた思考力・表現力を重視して評価します。

（２）総合型選抜

調査書、志望理由書及び課題レポート等の提出書類により、意欲・資質・将来展望・学習計画を評価し、データ分析を含む小論文や口頭試問及びプレゼンテーションを含む個人面接により、思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を評価します。また、データサイエンスに関連した資格試験等の合格者については、資格取得実績を評価します。なお、大学入学共通テストを利用して、高等学校における一定の学力到達度を確認します。

学 部 案 内

大学の概要

1. 沿 革

本学は、国立学校設置法（昭和 24 年法律第 150 号）により、滋賀県師範学校、滋賀青年師範学校及び彦根経済専門学校（前身は彦根高等商業学校）の 3 校を母体とし、学芸学部（昭和 41 年から教育学部と名称変更）及び経済学部の 2 学部をもって発足し、平成 16 年 4 月国立大学法人法（平成 15 年法律第 112 号）により国立大学法人となりました。そして、平成 29 年 4 月にデータサイエンス学部が設置されました。

また、昭和 48 年 9 月には、大学院経済学研究科（修士課程）が、平成 3 年 4 月には大学院教育学研究科（修士課程）がそれぞれ設置されました。平成 15 年 4 月には、大学院経済学研究科に博士後期課程が、さらに、平成 29 年 4 月には大学院教育学研究科の再編を行い専門職学位課程（教職大学院）が設置されました。そして、平成 31 年 4 月には、データサイエンス研究科（修士課程）が、令和 2 年 4 月にはデータサイエンス研究科（博士課程）が設立されました。

本学の前身である旧制各校の歴史は古く、明治、大正、昭和、平成、令和と輝かしい伝統を築きながら発展し、各界に多くの人材を送り出しています。

2. 国際交流

本学は、海外の大学との交流協定締結を初めて昭和 63 年にディーキン大学（オーストラリア）と結び、その後、湘潭大学（中国）、チェンマイ大学（タイ）、ミシガン州立大学連合（アメリカ合衆国）等、現在 36 校と結ばれ、学生の交流をはじめとして、教育研究等の相互協力が図られています。

学生交流として、グアナファト大学（メキシコ）、サウスイーストノルウェー大学（ノルウェー）等に交換留学生を派遣し、ディーキン大学オーストラリア研究（オーストラリア）、ミシガン州立大学夏季語学研修（アメリカ合衆国）等の短期研修を実施しています。これ以外にも学部独自の海外研修プログラムも実施しています。

3. 学生生活

本学には、日本学生支援機構及び地方公共団体並びにその他財団法人の奨学制度があり、在学生の約 35%が奨学生として採用されています。また、令和 2 年度から始まった高等教育の修学支援制度による授業料等の免除制度があります。

課外活動については、個性豊かな文化系・体育系のクラブやサークルがいくつもあり、どれも活発に活動しています。特に湖国近江の地の利を生かしたクラブ活動が盛んに行われています。

学寮は、寮生に勉学に専念できる生活環境を提供し、また団体生活を通して協同共生の精神を培うことを目的としており、大津キャンパスには平津ヶ丘寮（男子 28 名、女子 39 名収容）、彦根キャンパスには偲聖寮（男子 137 名、女子 30 名収容）があります。

4. 学内施設

○「図書館」は、大学の教育及び研究活動を支えるために必要な情報や資料を収集・提供しています。教育・経済・データサイエンス関係の専門図書はもとより、教養教育図書の充実にも努めています。それらの所蔵図書（66 万冊以上）の一部には、在学生による選定図書が含まれています。電子情報として電子ジャーナルやデータベース・電子ブック、視聴覚資料として DVD 等も整備し提供しています。また、全国の大学図書館とのネットワークによる相互協力サービスを行っており、本学にない資料を入手するための文献複写・図書貸借サービスも実施しています。学習、調査等の目的でグループ学習室を利用することもできます。図書館は誰もが自由に利用できる、大学における知的空間であり、実りある大学生活を支援するみなさんの施設です。多くの書物に囲まれながら、書物の「気」を感じてもらう「書林浴」を体験してみてください。

○「情報基盤センター」は、情報教育、学術研究、大学運営を目的とした情報基盤を運用しています。本学では、BYODを進めており、各自が持ち込んだコンピュータを学内無線 LAN に接続して、学習に利用できる環境を提供しています。また、演習室では、コンピュータを用いた文書作成、表計算、プレゼンテーションなどのソフトウェアを利用する情報リテラシー教育をはじめ、データ分析、プロ

グラミング言語，専門ソフトウェアを利用する科目等，さまざまな情報教育が行われています。さらに，課外の時間にはデータ分析や論文作成などが快適に行えるコンピュータの利用環境を提供しています。

○「環境総合研究センター」は，環境に関する学際的・総合的な研究及び教育を推進することを通じて，持続可能な社会の実現に資することを目的としています。地球環境から地域環境に至る幅広い視点で分野横断的な研究を推進するため，自然科学，人文科学，社会科学のさまざまな学問分野から多彩なアプローチで環境研究を推進しています。また，地域の他の研究機関，行政機関，NGO 等と連携した環境分野の人材育成や地域・国際貢献をめぐる取り組みにも重要な役割を果たしています。

○「データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター」は，データサイエンス教育研究拠点として平成 28 年 4 月に設立されたデータサイエンス教育研究センターを発展的に再編成して，令和 4 年 4 月 1 日に生まれた組織です。

同センターは，膨大なデータから有用な知見を引き出し，新たな価値を創造するデータサイエンスと，多くの分野で利活用が進む AI に関する先端的な教育研究活動を行っています。また，200 を超える企業や自治体，大学・研究機関と連携しており，様々な分野でのイノベーションの創出や，Society5.0 社会を牽引する高度専門人材の育成を行っています。

○「保健管理センター」は，学生と教職員の心身の健康管理を援助するために設置された機関です。彦根キャンパス（保健管理センター）と大津キャンパス（保健管理センター分室）に医師，カウンセラー，保健師（看護師）が配置され，健康診断，応急措置，心と体の健康相談等を司っています。また，正課中，学校行事中，キャンパス内にいる間及び課外活動中における傷害事故を補償する保険（学生教育研究災害傷害保険）等も所掌しています。

○「障がい学生支援室」は，各学部及び各研究科と連携し，障がいのある学生が，他の学生と等しく教育を受ける権利が保障されるよう，障がい学生支援に関する方針の立案及び支援システムを構築するとともに，具体的方策を検討及び実施することを目的としています。

修学上の支援や学生生活の支援を必要としている学部・大学院・専攻科の学生に対して，個別のニーズに応じた様々なサポートを行っています。

教 育 学 部

1. 立 地

本学部は大津市の南部，琵琶湖から流れる瀬田川のほとりの小高い丘陵地にあります。紫式部で名高い石山寺，松尾芭蕉が暮らした幻住庵など，大学から歩いて行ける距離にはいくつもの史跡があり，通学の往復路は瀬田川に沿って美しい景観が展開します。キャンパスは 15 万平方メートルの敷地を有し，勉学，スポーツや文化活動等を通じ友情を深めるのに最適な環境を整えています。その一方で，最寄の J R 石山駅へは京都駅から約 15 分，大阪駅からは約 45 分とアクセスに恵まれています。

2. 学部概要

本学部は教員養成に長い歴史をもち，これまで多数の教育者を育ててきました。卒業生の方々が滋賀県をはじめ全国で活躍されています。本学部は，こうした実績を踏まえ，様々な教育課題に対応できる実践的指導力を備えた教員の養成を目指しています。

3. コース 専攻・専修の紹介

○ 学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程のカリキュラムは三つの柱からなっています。一つ目は教育の意義や歴史，教育方法などを学ぶ教員養成基本科目です。二つ目は，実際に小中学校などへ行き，教育実習や学校ボランティア活動など，子どもと直接ふれあう経験を通して実践的指導力を身に付けていくための教育参加科目です。三つ目は，教科の授業力を向上するための得意分野育成科目であり，この中には，いじめ・不登校問題や環境問題，国際理解教育など学校教育や現代社会が抱えている課題を解決するための基礎を学ぶ科目も含まれています。

学生同士が切磋琢磨し，アットホームな雰囲気でのゼミなどで教員から指導が受けられる環境の下，

これら三つの柱を関連づけて学びながら、知の探求と実践的力の向上を目指し、充実した大学生を送ることができます。

学校教育教員養成課程は、初等教育コース・中等教育コース・障害児教育コースの3コースから構成されており、初等教育コースと中等教育コースは、さらに、教科の専攻・専修に分かれます。各専攻・専修の概要は、次のとおりです。

①初等教育コース 教育文化専攻

学校を軸としながら、家庭、地域、社会といった教育の場の広がりや相互の関連のなかで、そして人間の生涯という時間軸のなかで、教育を捉えなおす能力や教育者としての仕事を理解し今後の学校教育のあり方を構想できる能力を身に付けた教員の養成をめざしています。そのために、教育の理念や制度といったフォーマルな観点に加え文化の側面からも生きた教育を多角的・統合的に捉えなおす能力を、また教育の場における現代的諸課題を主体的・多面的に洞察できる能力を、具体的な教育現実の省察を通して育成します。教育学及び関連する分野の基礎的な学習はもちろん、学校及び社会の多様な場における教育や学習活動を実践的に体験し、理論と実践の往還的学習ができる機会を多く設けています。

②初等教育コース 教育心理実践専攻

児童・生徒の成長過程とその背景、学習の過程と教師からの指導方法、子どもと他者・社会との関わり、学校の諸問題に対する心理的な支援の方法、進路や職業の選択など、学校において、児童・生徒を深く理解し指導するうえでの重要な課題について学びます。子どもを心理的な面からとらえることにより、現代の子どもをめぐる困難な問題を解決する理論的背景を知り、同時に臨床的なまなざしに根ざした実践的な対応力を身に付けます。

③初等教育コース 幼児教育専攻

生涯発達の基盤となる乳幼児期の重要性を踏まえ、幼児教育学、幼児心理学、幼児教育方法を柱として、乳幼児期の子どもの発達とそれを援助する幼児教育の理念及び方法について学びます。保育士資格については国家試験による取得を推奨し、卒業時までの資格取得をサポートするとともに、保育所・認定こども園で必要となる知識や保育実践力について学ぶ科目もカリキュラムとして用意しています。子育て支援や小学校教育との接続といった幼児教育・保育が直面している今日的課題にも幅広く取り組める、幼稚園教諭や保育教諭を養成します。

④初等教育コース 国際理解教育専攻

異なった国や民族の人々の歴史・文化・生活を互いに尊重し、理解し合うことのできる国際的な視野を持ったこどもを育てるための理論と方法について学びます。多文化共生、ダイバーシティ、言語文化を中心としたカリキュラムを用意し、学校における国際理解教育のリーダーとして活躍できる教員、さらに、日本の学校に在籍する外国にルーツを持つ児童・生徒に対する教育支援のできる教員の養成を目指します。

⑤初等教育コース 環境教育専攻

現代の複雑多様化する環境問題の現状や原因を正しく理解し、教育現場において、課題解決に至る展開や様々な視点からものごとを関連づけてとらえていく授業づくりができる教員の養成を目指します。環境に関する講義科目に加え、琵琶湖を中心とした自然豊かなフィールドを活用した湖沼学実習や栽培実習などの体験科目を通して、自然や生活に関する科学的な力を身に付けます。

⑥初等教育コース 初等理科専攻

自らも理科を楽しみながら理科の面白さを伝えられる教員の養成を目指しています。自然界の事象に対する疑問について、観察・実験を通して児童自らが考え、その答えを見つけられるように指導や支援を行うことが重要と考えます。そのためには、学校現場での指導経験を含めてより実践的な体験も行う必要があります。そこで、小学校教科の中でも理科を得意分野とすることができるように、物理・化学・生物・地学各教科専門教員の指導により小学校理科の観察・実験に必要な技能を身に付け、さらに理科教育学専門教員から児童の考え方やそれにもとづく教育法を学びます。

⑦初等教育コース 初等英語専攻

小学校高学年における英語の教科化と、中学年における外国語活動が開始されるなかで、確かな英語指導力を備えた小学校の教員が緊急に求められています。初等英語専攻では、初等英語教育の意義と専門的な知識を踏まえ、初等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、児童の実態に即した指導プランを構想し実践することのできる教員の養成を目指します。英語という言語及び異文化に対する深い理解とともに、初等英語教授法の専門知識を身に付け、小学校において英語の専科教員及び英語教育のコア教員となる英語指導力をもつ教員の養成を目的としています。

初等教育コース 初等教科専攻の各専修については、中等教育コースの各専攻と一緒に記載しています。

⑧初等教育コース 初等教科専攻 国語専修

中等教育コース 国語専攻

初等教育コースでは、国語教育に対する広い視野と問題意識をもって、初等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、児童の実態に即した指導プランを構想し実践できる教員の養成を目指します。専門分野としては、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育があります。初等教育コースは、上記のいずれかを得意分野とする小学校教員を志望する人が対象となります。

中等教育コースでは、国語教育に対する広い視野と問題意識をもって、中等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、生徒の実態に即した指導プランを構想し実践できる教員の養成を目指します。専門分野としては、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育があります。中等教育コースは、中学校・高等学校の国語科教員を志望する人が対象となります。

⑨初等教育コース 初等教科専攻 社会専修

中等教育コース 社会専攻

初等及び中等段階の社会科教育を担うことができる教員の養成を目指しています。現代の社会は、変化が激しく、また異なる文化や価値観との共存や国際協調が必要な社会になっています。このような社会で、社会に対する深い理解に基づき、諸問題の解決に取り組み、よりよい社会の形成に参画するための資質や能力が求められています。私たちはこのような資質や能力を育成するための社会科教育を担うことができる教員の養成を目指しています。そのため、高等学校までに学ぶ社会科や地歴科・公民科すべてに自信のある生徒を求めています。初等教育コースでは、社会や社会生活に対する児童の関心を高め、それらに対する理解を深めるための教育ができる教員を養成します。中等教育コースでは、地理・歴史・公民分野の専門的な知識を基礎にして、幅広い視野と関心から、中等教育にふさわしい内容と方法で、それらを教えることのできる教員を養成します。

⑩初等教育コース 初等教科専攻 算数専修

中等教育コース 数学専攻

小学校、中学校、高等学校と学年が進むにつれて、「算数・数学嫌い」は増える傾向にあります。これに対処するために、教師は子どもたちが「算数・数学をどう理解するのか」「どこでどうつまづくのか」など、児童・生徒の実態を十分に把握するとともに、算数・数学への広い関心をもつことが必要です。「学校数学とは何か」に関する深い知識を身に付けるとともに、教科内容と子どもの活動を関連づけ発展させるための指導法を学べるようにカリキュラムを構成し、「算数・数学をどう教えるべきか」を考えることができる実践力のある教員の養成を目指します。

⑪中等教育コース 理科専攻

自らも理科を楽しみながら理科の面白さを伝えられる教員の養成を目指しています。自然界の事象に対する疑問について、観察・実験を通して生徒自らが考え、その答えを見つけられるように指導や支援を行うことが重要と考えます。そのためには、生徒の目線で考える姿勢や自然科学の理論体系を含めた理科の幅広い知識を養う必要があります。そこで、中学校・高校の理科教員に必要な専門知識や専門分野の理解を深めるための講義や演習の受講、最先端研究に関する知識の習得などを行います。それと共に理科の効果的な指導法や理科教育学について専

門的に学びます。

⑫初等教育コース 初等教科専攻 音楽専修

中等教育コース 音楽専攻

現代の子どもたちを取り囲む様々な状況において、音楽教育の果たす役割はますます重要になってきています。音楽教育が人間形成に及ぼす影響力は大きく、常に新しい可能性が感じられる分野でもあります。子どもたちの豊かな感受性や表現力を育てるための理論と実践方法を、音楽の表現や鑑賞の活動を通して学びます。具体的には、音楽教育、作曲、声楽、器楽、音楽理論・音楽史などの分野について基礎を習得したうえで、表現の多様性や専門性を追究します。授業は、音楽科教育等のクラス授業のほかに、声楽、器楽のレッスンや作曲の作品制作指導、音楽教育の論文指導など、きめ細かな個人指導を重視しています。初等教育コースでは、音楽を得意とする幅広い視野を持った小学校教員を、中等教育コースでは、音楽の専門性の高い教員を養成します。

⑬初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専修

中等教育コース 美術専攻

初等教育コースでは、小学校教員として特に図画工作を得意とする教員を養成します。そのために、「図画工作科教育法」を中心に児童の発達や特性を踏まえ、「造形遊び」にみられるような子どもの主体的な造形活動を保障する授業の在り方や、広く子どもの学習活動を支える図画工作科の重要さとその意義を学びます。また、「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論」の各専門的な領域から、小学校教員として必要な表現及び鑑賞の教材開発能力及び実践方法を身に付けることを目指します。

中等教育コースでは、中学校・高等学校の美術科教員を主に養成します。そのために「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論」などの制作と理論をより専門的に学ぶと共に、「美術科教育」関連科目によって美術教育の理念及び題材開発や実践方法を身に付け、美術に対する深い力量と専門性を持った教員の養成を目指します。

⑭初等教育コース 初等教科専攻 体育専修

中等教育コース 保健体育専攻

共通して体育（保健体育）に関する高い専門的知識と技能を持った教員の養成を目指しています。そのために、理論として、保健体育科教育学、体育学（武道論、スポーツ社会学、スポーツ心理学など）、運動学（体力科学、スポーツ運動学、運動生理学など）、学校保健（衛生学及び公衆衛生学、学校保健）を学び、実技として、球技、水泳、陸上競技、器械運動、武道、スキー、ダンス、救急処置などを習得します。また、初等教育コースでは小学校教育の場で、中等教育コースでは中学校ならびに高等学校の保健体育科教育の場で、効果的な学習指導を展開するための教材開発や授業づくり、カリキュラムづくりについて深く探求し、実践的指導力の基礎を形成します。これらを通して、体育分野と保健分野のバランスのとれた、地域で核となって活躍できる教員を養成します。

⑮初等教育コース 初等教科専攻 情報・技術専修

中等教育コース 情報・技術専攻

科学技術や情報通信技術の基礎を学び、それらの生活への活用についての認識を深め、健全な情報社会の発展や科学技術の進歩に寄与できる実践的能力を有するとともに、生活に必要な技術を身に付け、工夫し、創造する能力をもった子どもを育てるための理論と方法について学びます。さらに、中学校・技術科教育や小中学校におけるプログラミング教育をはじめとする情報教育のリーダーとして、これらの教育に関するカリキュラム開発や教材研究を行い、児童・生徒の実態に即した指導計画を作成して実践できる優れた教員の養成を目指します。

また、e-Learningやインターネット環境を積極的に活用した学習環境の中で、文理融合の情報学、科学技術リテラシーに関する教育も推進します。このために必要となる情報と技術に関する広い知識の習得や各種メディアを積極的に活用できる能力の育成も目指します。

⑯初等教育コース 初等教科専攻 家庭専修

中等教育コース 家庭専攻

家庭科は、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度を育成することを目標としています。小学校、中学校、高等学校の家庭科でこれらの指導に対応できる専門的・総合的实践力を備えた家庭科教員の養成を目指しています。主な教育・研究分野としては、家庭経営学、食物学、被服学、住居学、保育学、家庭科教育学などがあります。初等教育コースでは、子どもの生活を理解し、家庭科を得意とする小学校教員の育成を目指します。中等教育コースでは、家庭科教育に優れた指導力を持つ中学校・高等学校教員の育成を目的とします。

⑰中等教育コース 英語専攻

グローバル化の推進のために英語教育全般の質的変換がはかられるなかで、確かな英語力と英語指導力を兼ね備えた教員が求められています。本専攻では中学校・高等学校の英語教員に求められる専門知識と教育に対する広い視野と高い問題意識をもち、中等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、生徒の実態に即した指導プランを構想し実践することのできる教員の養成を目指します。専門分野としては、英語学・英米文学・英語教育があります。英語という言葉、及び英語圏の文化・文学に対する専門的な知識と理解、優れた教授法を身に付けた、実践的な指導力をもつ教員の養成を目的としています。

⑱障害児教育コース 障害児教育専攻

知的障害、肢体不自由、病弱及び自閉症スペクトラム、LD、AD/HD等の発達障害のある子どもたちに携わる教員の養成を目指しています。その教育の場は、特別支援学校(養護学校等)、特別支援学級、通常学級に広がっています。また、地域での生活、就学前保育・教育、卒業後の生活保障など地域での一貫した取り組みが重要になっています。そのため本専攻では、障害児教育、障害児心理、障害児病理、障害児福祉の分野について総合的に学べるカリキュラムを用意しています。

4. 履修科目の概要

教育課程は、全学共通の教養教育科目と本学部の専門教育科目からなります。

教養教育科目は、「大学入門科目」「全学共通教養科目」「外国語科目」「体育科目」から構成されています。大学入門科目は、「大学入門セミナー」など4科目からなり大学で学習するにあたり必要な基本的スキルと心構えを身に付けます。全学共通教養科目は、ヒューマニティーズ、サイエンス、クリエイティブ・スタディーズの3分野に多彩で魅力的な科目が開講され、幅広い知識と視野から物事を考える能力を養います。外国語科目は、異文化理解とコミュニケーション能力の育成を、体育科目は、体力づくりや身体管理について学びます。

専門科目は「教員養成基本カリキュラム」「教育参加カリキュラム」「得意分野育成カリキュラム」から構成されています。教員養成基本カリキュラムは、共通教職科目、初等教科内容学と初等教科教育学などからなり、各種教員免許の取得に共通して必要な科目を履修して学校教員としての基礎を身に付けます。教育参加カリキュラムは、教育実習プログラムと教育体験プログラムからなり、実践的な能力の育成のために、子どもとのふれあいや、授業だけでない子どもの学びを理解し作り上げる体験を重視するとともに、教育現場における体験を大学における学習に結びつけるプログラムです。得意分野育成カリキュラムは、各専攻の専門科目で、学問的な見識を身に付けるとともに、学校教育における指導力に結びつけることを目標としています。

さらに、GIGAスクール構想を踏まえ、Society5.0時代に活躍する新しいタイプの教師の養成を目指す取り組みとして「教育データサイエンティスト」養成プログラムを実施しています。

また、少人数教育により学生の主体的な学習を促し、卒業論文等を作成する過程を重視しています。

卒業生には、「学士(教育)」の学位が与えられるとともに、卒業に必要な単位を修得することにより次の表に示す教員免許状が取得できます。さらに、必要な単位を修得することにより次の表に示す種々の教員免許状が取得できます。所属専攻以外の学校種や教科の免許状の取得も可能です。

教育職員免許状以外に、次の表に示す社会教育主事の基礎資格、学校図書館司書教諭の所要資格が取得できる授業科目が用意されており、それらの科目を修得することによって資格取得のための試験・講習の一部が免除されます。

課程	コース	専攻	卒業に必要な単位を修得することによって得られる教育職員免許状等	取得可能な教育職員免許状等(*1)
学校教育教員養成課程	初等教育コース	幼児教育専攻	幼稚園教諭1種免許状	幼稚園教諭1種免許状
		教育文化専攻 教育心理実践専攻 国際理解教育専攻 環境教育専攻 初等理科専攻 初等英語専攻 初等教科専攻	小学校教諭1種免許状	小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 教科：国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語
	中等教育コース	国語専攻 社会専攻 数学専攻 理科専攻 音楽専攻 美術専攻 保健体育専攻 情報・技術専攻 家庭専攻 英語専攻	中学校教諭1種免許状 教科：国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語	高等学校教諭1種免許状 教科：国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，情報，英語 特別支援学校教諭1種免許状(*3)
	障害児教育コース	障害児教育専攻	小学校教諭1種免許状 特別支援学校教諭1種免許状(*3) 中学校教諭1種免許状(*2) 特別支援学校教諭1種免許状(*3)	社会教育主事の基礎資格(*4) 学校図書館司書教諭(*5)

注)*1. 取得することができる免許状とは、卒業に必要な単位に加えて「教育職員免許法」等に定める所定の単位を修得することによって得られる免許状です。ただし、時間割の編成上すべての者に対して4年間で履修計画が立つよう約束されているものではありません。

*2. 取得できる中学校教諭1種の教科は、他の専攻において取得できる中学校1種の教科のうち、いずれかを選択することとなります。

*3. 「知的障害者に関する教育の領域」「肢体不自由者に関する教育の領域」「病弱者に関する教育の領域」の3領域です。

*4. 「社会教育主事の基礎資格」取得者には、「社会教育士(養成課程)」の称号が付与されます。

*5. 申請要件の科目及び単位を修得し、学校図書館司書教諭講習の委嘱大学を通して申請することにより取得することができます。

5. 卒業後の進路

卒業生の多くは、幼稚園から高等学校、特別支援学校といった幅広い校種の教員になっています。就職できる学校の種類は、取得した教員免許状に基づいて決まります。複数の教員免許状を取得した場合は、教員採用試験を受ける際に、本人の能力・適性に応じて自らの意思で学校の種類を決めることができますし、教育現場では複数の免許状を所持する教員のニーズが高まっています。また、大学院に進学して専門性を深める道や、学習した分野と関係の深い公務員や企業の一員となり、専門性を生かして活躍する道もあります。

6. 附属教育研究施設

「教育実践総合センター」は、教職支援と地域共同研究を中心に業務を行っています。教職支援としては、教育実習での指導や教職キャリア教育などを行っています。地域共同研究としては、県や市町の教育委員会及び各学校園と連携しながら、教育課題や授業実践等に関して研究を行っています。その他、幼稚園から高等学校までの教員研修等のための出前講義、学生の学校ボランティア派遣、発達障害や不登校への教育相談などの業務も実施しています。

「音楽教育支援センター」は、障害児者の音楽教育・音楽活動の支援を目的として、藤村泰子記念基金が設立され、教育学部の附属教育研究施設として令和2年10月に設置されました。障害児者を対象とした音楽教育のインリーチ事業、アウトリーチ事業、指導者の研修、先端研究などの事業を実施しています。

7. 附属学校園

本学部には、児童・生徒の発達段階に応じて、初等教育、中等教育、障害児教育及び幼児教育を行うとともに、学部における児童・生徒及び幼児の教育に関する研究に協力し、学生の教育実習の実施に協力することを目的として、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校を設置しています。

経 済 学 部

1. 立 地

本学部は、旧制の彦根高等商業学校を前身校とし、実業界を中心として各界に多数の人材を送ってきました。キャンパスは彦根城天守閣のそばに緑豊かな城山のふもとにあり、琵琶湖まで徒歩10分の距離にあります。美しい自然と豊かな文化・歴史環境に恵まれて、勉学やスポーツなどに取り組むのに絶好の場所にあります。またそうした環境にありながら、最寄りの彦根駅からは京都や大阪、あるいは岐阜や愛知への交通の便もよいところが魅力といえます。

2. 学部概要

(1) 3専攻

本学部（総合経済学科）では、いわゆる経済学や経営学のほか、それらと深く関わりのある法学、社会学、心理学などを学ぶことができます。1・2年次には専門の基礎となる科目などを幅広く学び、そののち3年次進級時に経済専攻、経営専攻、社会システム専攻のいずれかを選択し、それぞれの分野について専門的に学んでいきます。

本学部には昼間主コースだけでなく夜間主コースも設けられています。夜間主コースは平成29年4月からフレックス制に移行しました。昼夜（1日7時限）いずれの時間帯の授業でも、自己のキャリア形成プラン・ライフプランに応じた学習計画に基づいて、ほぼ制限なく履修が可能となっています。

①経済専攻

経済活動は、私たちの暮らしや社会の営みや国際関係にとって切り離すことのできない重要な役割を果たしています。経済専攻は、彦根高等商業学校設立以来最も長い学問的蓄積のある分野の一つとして、複雑な経済活動を、理論・歴史・制度・政策といった諸側面から多面的・総合的に分析しています。具体的には、経済社会の仕組みをマクロ的にあるいはミクロ的に捉えたり、経済社会全体の構造を分析する諸理論を学び、市場経済や政府部門の経済活動や経済政策、さらにそうした分野を国際的に捉えて比較分析したり、過去から現代に至る経済活動の発展を歴史的に捉える学問を学びます。

1980年代以降の金融自由化・国際化を背景に、①デリバティブ、証券化商品等の高度なリスク管理を可能とする複雑な金融商品の登場、②電子金融取引の急速な発展、③ヘッジファンドや再生ファンド等の投資ファンドの急速な普及など、いわゆる「金融革命」が進行しました。ファイナンスは、企業や家計が行う資金の調達と運用に関する総合的な学問分野であり、現代証券投資理論、金融工学、金融市場の実証分析、契約理論等の最新の学問分野を含んでいます。企業が資金を調達する際には「株式発行、社債発行、銀行借入等に如何に割り当てれば調達費用とリスク管理の観点から最適となるか」を考える必要があります。また、金融機関・企業が資金を運用するに際しては、「企業向け貸出、株式、債券等に如何に配分すれば運用収益とリスク管理の観点から最適となるか」に加え、「個々の運用対象案件である貸出先企業、株式、債券が投資するに値するか」を評価、判断しなければなりません。こうした問題を解こうとすると、マクロ経済情勢、金融市場等を総合的に分析する必要が生じます。

経済専攻では、これらの多様な学問を系統的に習得できるよう、経済学の基礎理論をまずしっかり身に付け、順次各部門の専門科目へ進み、複雑な経済現象を総合的に分析・判断できる経済人へと成長していけるようにカリキュラムが組まれています。激動の日本経済・世界経済の中で活躍しようとする学生諸君にグローバルな視野と専門的な経済知識の涵養を約束するのが経済専攻です。

②経営専攻

経営学は、主として企業が直面する多様な課題を、様々な角度から解決することを目指す学問です。たとえば、経営者と労働者の関係、企業と消費者や株主との関係、企業と地域社会との関係、企業を取り巻く国内・国際政治、経済、文化、宗教、自然環境など、企業が直面する課題は様々あります。

これらの課題に一定的方法的考察を加え、体系化をはかるのが経営学の重要な目的です。そこから得られた知識の蓄積をもとに、企業の目的を達成するために、組織、経営戦略、従業員を積極的に仕事に向かわせる誘因、消費者満足の充足などについての理論構築を目指すことが経営学に課された課題と考えられます。

経営学の領域には「お金の流れ」というのも大事な要素です。経営専攻では、家計、企業、学校、病院、官公庁などさまざまな組織で行われる「お金の流れ」を計算・記録し、その結果の報告や解釈の方法を考える会計学についても学ぶことができます。会計学は、「お金の流れ」を知ることによって誰の役に立つのかに応じて2つに分類されます。企業外部の利害関係者である株主、債権者、投資家などに対して自社の財務状況や営業成果を伝える「財務会計」と、企業の経営管理者が経営戦略を策定したり、新製品開発や海外進出の計画を立てたりするのに役立つ「管理会計」とがあります。さらに、企業が用いる資金を外部から調達するのも大事な「お金の流れ」です。資金調達の手段として、株式発行、社債発行、銀行借入れなど様々な手段がありますが、どの手段を用いれば調達費用とリスク管理の観点から最適となるかを考える必要があります。

経営専攻では、多様な学問を体系的に身に付けることができるようにカリキュラムが組まれています。経営学・会計学の基礎理論を修得後、経営戦略やマーケティング、会計の仕組みや特徴、資金調達の方法やリスク管理など、社会に出てビジネスの世界で成功するために必要な知識や考え方を修得し、新たな問題に直面した場合の問題解決能力を身に付けることができるようになるのが、経営専攻です。

③社会システム専攻

経済現象は、経済分野のなかで経済問題としてだけ生じるのではなく、社会の他の分野とも深い関連を持っており、問題の性格によっては、経済に関連する様々な知識が不可欠になります。社会システム専攻は、経済学部の中にありながら、経済そのものというよりも経済と他分野との「関係」に関する研究・教育を行っています。したがって、経済・社会・法・政治を学ぶ社会科学、言語や歴史文化を学ぶ人文科学、認知・情報の科学など、幅広い分野を対象としています。これら複数の学問分野に触れることで、それぞれの分野での高度な専門知識と、その土台となる教養を修得します。同時に社会の構造や関係のシステムティックな理解を通じて、現代社会の様々な出来事を総合的に読み解くための応用力を養っていきます。

社会システム専攻は、主に次の4つの分野をそれぞれ専門としている教員が担当しています。
〔社会システム分野〕

社会、政治、行政、国際関係、環境、社会心理等々の分野におけるさまざまなアクターの行動やその全体構造に焦点を当て、現代社会を読み解くための基礎理論を学びます。

〔法システム分野〕

国内外の経済活動、社会活動や雇用、租税といったさまざまな関係を規律する社会のしくみの法的な見方、考え方を学びます。

〔思考情報システム分野〕

経済や社会を構成する基本単位である人間の「知」のあり方について多角的に学びます。ひとの「心・技・体」の研究が中心となっています。

〔国際文化システム分野〕

世界の中の様々な地域・社会について言語・文化や歴史の観点から学びます。

(2) 柔軟な教育システム

本学部は、国立大学法人の経済学部としては規模の大きい約70名の教員スタッフを有し、その専門分野も多様です。この恵まれた環境を活かし、幅広い教養や深い専門知識に加え国際的視野やデータサイエンスに関する知識なども身につけていただけるように、とても柔軟な教育システムを採用

用しています。ほとんどすべての科目や演習は、どの専攻の学生でも履修することが可能です。

グローバル・コースやデータサイエンス・コースなどの特別プログラムも用意しています。グローバル・コースでは、留学生とのグループディスカッションや共同研究、英語による専門科目の履修を通じてグローバルスペシャリストを目指します。データサイエンス・コースでは、数理・データサイエンス・AIの知識を経営・経営分野で実践的に活用できるデータサイエンティストを目指します。

学生の多様な関心や、入学後の学習・進路希望の変化にも柔軟に対応しうる総合的な教育システムとなっています。

3. 卒業

いずれの専攻に属し、いずれの学習類型を選択しても、本学部の卒業生には、「学士（経済学）」の学位が授与されます。

4. 卒業生の活動

卒業生は、旧制彦根高等商業学校時代からの100年の伝統を受け継ぎ、各方面で活躍しています。大多数の者は、金融・保険・商業・製造業等を中心に全国的規模で経済界に進出し活躍しています。また、官公庁・教育界・学界へも進出しています。

なお、本学には大学院経済学研究科博士前期課程（経済学専攻、経営学専攻及びグローバル・ファイナンス専攻）及び博士後期課程（経済経営リスク専攻）が設置されており、学部卒業後、進学の道が開かれています。

5. 諸施設の事業と利用

(1) 「滋賀大学経済経営研究所」は、2020（令和2）年4月、リスク研究センターと統合し、新しい戦略的教育研究を展開する拠点として再出発しました。統合後の名称は、旧制彦根高等商業学校以来の伝統を持ち、多くの人が慣れ親しんだ組織名称「経済経営研究所」をそのまま継承しました。

新しい経済経営研究所は、以下の3つの部門における研究の推進とその成果の公開を事業の中心とし、それらを教育に還元するとともに、社会の発展に貢献します。

①リスク研究部門：リスク研究センターの使命と実績を継承しつつ、データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターとの連携を図り、多様な領域分野において、高度なデータ分析に基づく実証研究を推進します。

②先端研究部門：経済・経営を中心に広範な学術領域の先端研究を推進します。

③未来社会研究部門：〈創発研究班〉と〈未来パラダイム研究班〉を配置、大きな変化が予想される未来社会に向けて、学問パラダイム、人々の認識や価値、社会の仕組みなどについての内省と変革につながる気配や関心を育みながら、理論的・実証的研究を推進します。

これらの研究活動のプロセスとして、セミナー・ワークショップ・講演会等を開催し、アウトプットとして、従来の『ディスカッションペーパー』『ワーキングペーパー』『彦根論叢』『滋賀大学経済学部研究年報』『滋賀大学経済学部研究叢書』に加え、柔軟性を持つリーフレットやブックレットの出版も行います。

セミナーやワークショップは、学生の皆さんも参加することが可能ですし、研究論文は、「滋賀大学学術情報リポジトリ」を通して読んで頂くことができます。さらに、夏休みには「学生懸賞論文」の募集もあり、みなさんの普段の研究成果をためすこともできます。

なお、経済経営研究所では、「旧植民地関係資料」等の史資料、「会社史・団体史」「滋賀県関係資料」なども所蔵し、公開しています。

(2) 「滋賀大学経済学部附属史料館」は、主に現在の滋賀県（かつての近江国）の社会、文化、経済、経営に関する歴史資料（史料）の調査・収集と整理・保管と公開を担う本学部の附属施設です。収蔵史資料には、①国宝・重要文化財に指定されている中世史料、近世から近代にかけての近江商人や村方や町方の史料、近現代の近江商人系企業史料と、②近江商人の行商用具や「琉球貿易図屏風」などの民俗資料があります。収蔵史資料は、学部生や大学院生は申請手続きをすればその閲覧ができますし、それらの一部は、常設展示や春秋年2回の企画展示で随時公開しています。また、収蔵史資料をめぐる研究に用いる歴史関係の図書や雑誌を配架して

閲覧に提供し、収蔵史料を活用した研究の成果は、本館が編集する逐次刊行物『研究紀要』や『収蔵史料目録』をとおして発表しています。本施設では、史料（古文書）の閲覧、展示の観覧、図書などの閲覧ができます。

データサイエンス学部

1. 立 地

本学部は、経済学部と同じく彦根キャンパスにあります。キャンパスの隣には、国宝指定の現存天守を持つ五城の1つである彦根城があります。また、日本最大の湖である琵琶湖まで徒歩10分程度です。どちらも校舎から眺めることができ、歴史と自然を感じながら、学問に打ち込むことができますでしょう。

2. 学部概要

本学部は、データサイエンス学科の1学科で構成されています。データサイエンスは、ビッグデータから重要な知見を導くための新たな学問領域です。本学部は、データサイエンスを専門的に学ぶための日本で初めての学部です。

情報通信技術の進展によって、社会の様々な分野でビッグデータと言われる多種多様で膨大な量のデータが集積され、その活用による付加価値の創出が大きな課題となっています。本学部が育成する人材は、ビジネス、教育、医療、自然科学など多様な領域のデータを扱い、データサイエンスやAI(人工知能)の知識とスキルによって、ビッグデータに秘められた知見を見つけだし、価値を創造するデータサイエンティストです。データサイエンティストは、データ活用によって社会の最適な意思決定を支える新たな人材です。

多様な領域でのデータ分析力を高めるために、データ解析の専門知識とスキル、多量のデータを加工処理するための専門知識など幅広いカリキュラムを推進するための情報・統計・応用に関する専門教員を配置し、日本におけるデータサイエンス教育・研究の中核的大学になることを目指しています。長い間企業でデータサイエンスを実践していた教員もあり、企業や自治体の実際のデータを用いた実践的な演習を重視した教育をおこなっています。

3. 卒 業

本学部の卒業生には、「学士（データサイエンス）」の学位が授与されます。

4. 資格取得

本学部では、所定の単位を修得することにより、社会調査士とSAS Academic Specializationの資格を取得することが可能です。また、情報処理技術者試験（基本情報技術者試験、応用情報技術者試験）、統計検定（準1級、2級）、品質管理検定（2級）の高い合格率を見込めるカリキュラムを提供します。

5. 卒業後の進路

データを正しく管理し、的確に分析できる人材は、政策・経営戦略の立案を始め、顧客満足度の把握、財務管理、商品開発といったビジネスや組織運営のさまざまな場面で需要が高く、最適な意思決定を支える人材として、官民すべての現場での活躍が目指せます。本学部卒業生は、コンサルティング業として様々なデータサイエンスの手法を駆使して各種問題を解決したり、事業会社（製造業、金融業、小売業、運輸業など）に属して所属企業の課題解決を行ったり、官公庁に属してエビデンスに基づく政策立案(EBPM, Evidence Based Policy Making)を行ったりなど、幅広い就職先で活躍しています。また、博士前期課程に進学しさらに専門的なデータサイエンスのスキルを習得したり、自らベンチャーを起業して社会に貢献したりするなど、様々な道が開かれています。

なお、2期生の進学・就職率は92%であり、進路としては次頁のとおりでした。

- ・情報通信・IT業，コンサルタント業：約4割
- ・製造業：約2割
- ・その他（金融業，官公庁，起業など）：約3割
- ・進学：博士前期課程約1割

卒業後の進路先詳細はこちら



※2期生の進路にはありませんでしたが，この他，製菓，医療機関，臨床検査機関等の進路も想定されます

6. 諸施設の事業と利用

「データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」は，データサイエンス教育研究拠点として平成28年4月に設立されたデータサイエンス教育研究センターを発展的に再編成して，令和4年4月1日に生まれた組織です。同センターは，200を超える企業や自治体，大学・研究機関と連携してデータサイエンスの社会実装を進めるとともに，データサイエンス・AI教育研究のノウハウを更に発展させ，Society5.0時代での「社会との共創」の旗手として，全ての世代に向けたデータサイエンス・AI教育の提供や，データサイエンス・AI研究の社会実装を積極的に展開していきます。それとともに，教育学部や経済学部と連携し，全学的な文理融合のための教育研究活動拠点としての役割を果たしています。近隣の滋賀医科大学，滋賀県立大学，長浜バイオ大学，京都大学，名古屋大学，大阪大学などともデータサイエンスをコアとして連携しています。

令和４年度 滋賀大学入学者選抜資料

教育学部 (一般選抜)

選抜区分	コース等	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
前期日程	学校教育教員養成課程	134	319 (154)	2.4	305 (146)	2.3	153 (74)	2.0	139 (62)
	計	134	319 (154)	—	305 (146)	—	153 (74)	—	139 (62)
	学校・文系型	71	196 (104)	2.8	189 (100)	2.7	88 (50)	2.1	77 (40)
	学校・理系型	39	91 (29)	2.3	87 (27)	2.2	48 (14)	1.8	46 (13)
	学校・面接	7	5 (3)	0.7	5 (3)	0.7	2 (1)	2.5	1 (0)
	学校・音楽	5	10 (9)	2.0	8 (7)	1.6	5 (5)	1.6	5 (5)
	学校・美術	5	6 (5)	1.2	6 (5)	1.2	3 (2)	2.0	3 (2)
	学校・体育	7	11 (4)	1.6	10 (4)	1.4	7 (2)	1.4	7 (2)
	計	134	319 (154)	—	305 (146)	—	153 (74)	—	139 (62)
後期日程	学校教育教員養成課程	24	262 (137)	10.9	79 (42)	3.3	31 (18)	2.5	24 (14)
	計	24	262 (137)	10.9	79 (42)	3.3	31 (18)	2.5	24 (14)
一般選抜合計		158	581 (291)	—	384 (188)	—	184 (92)	—	163 (76)

教育学部 (学校推薦型選抜)

選抜区分	コース等	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
一般推薦	初等教育 A教育文化	3	10 (9)	3.3	10 (9)	3.3	3 (3)	3.3	3 (3)
	初等教育 A教育心理実践	2	11 (9)	5.5	11 (9)	5.5	2 (2)	5.5	2 (2)
	初等教育 A幼児教育	3	20 (16)	6.7	20 (16)	6.7	3 (3)	6.7	3 (3)
	初等教育 A国際理解教育	2	3 (3)	1.5	3 (3)	1.5	2 (2)	1.5	2 (2)
	初等教育 A環境教育	3	7 (3)	2.3	7 (3)	2.3	3 (2)	2.3	3 (2)
	初等教育/中等教育 A初等教科 国語/国語	2	5 (5)	2.5	5 (5)	2.5	2 (2)	2.5	2 (2)
	初等教育/中等教育 A初等教科 社会/社会	3	24 (7)	8.0	24 (7)	8.0	3 (2)	8.0	3 (2)
	初等教育/中等教育 A初等教科 算数/数学	2	14 (6)	7.0	14 (6)	7.0	2 (1)	7.0	2 (1)
	初等教育/中等教育 A初等 理科/理科	3	4 (1)	1.3	4 (1)	1.3	3 (1)	1.3	3 (1)
	初等教育/中等教育 A初等教科 音楽/音楽	2	4 (2)	2.0	4 (2)	2.0	2 (0)	2.0	2 (0)
	初等教育/中等教育 A初等教科 図画工作/美術	2	4 (3)	2.0	4 (3)	2.0	2 (2)	2.0	2 (2)
	初等教育/中等教育 A初等教科 体育/保健体育	2	9 (7)	4.5	9 (7)	4.5	2 (2)	4.5	2 (2)
	初等教育/中等教育 A初等教科 情報・技術/情報・技術	2	3 (1)	1.5	3 (1)	1.5	2 (1)	1.5	2 (1)
	初等教育/中等教育 B初等教科 情報・技術/情報・技術	2	1 (0)	0.5	1 (0)	0.5	1 (0)	1.0	1 (0)
	初等教育/中等教育 A初等教科 家庭/家庭	3	6 (5)	2.0	6 (5)	2.0	3 (3)	2.0	3 (3)
	初等教育/中等教育 A初等 英語/英語	2	7 (4)	3.5	7 (4)	3.5	3 (3)	2.3	3 (3)
	障害児教育 A障害児教育	3	4 (4)	1.3	4 (4)	1.3	3 (3)	1.3	3 (3)
	小 計	41	136 (85)	—	136 (85)	—	41 (32)	—	41 (32)
	合 計	41	136 (85)	—	136 (85)	—	41 (32)	—	41 (32)
地域推薦	初等教育 教育文化	—	8 (8)	—	8 (8)	—	3 (3)	2.7	3 (3)
	初等教育 教育心理実践	—	3 (3)	—	3 (3)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育 幼児教育	—	7 (7)	—	7 (7)	—	1 (1)	7.0	1 (1)
	初等教育 国際理解教育	—	1 (1)	—	1 (1)	—	1 (1)	1.0	1 (1)
	初等教育 環境教育	—	3 (1)	—	3 (1)	—	1 (0)	3.0	1 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 国語/国語	—	3 (3)	—	3 (3)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 社会/社会	—	7 (2)	—	7 (2)	—	1 (0)	7.0	1 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 算数/数学	—	6 (2)	—	6 (2)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等 理科/理科	—	2 (0)	—	2 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 音楽/音楽	—	2 (1)	—	2 (1)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 図画工作/美術	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 体育/保健体育	—	7 (5)	—	7 (5)	—	1 (0)	7.0	1 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 情報・技術/情報・技術	—	2 (0)	—	2 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 家庭/家庭	—	3 (3)	—	3 (3)	—	1 (1)	3.0	1 (1)
	初等教育/中等教育 初等 英語/英語	—	5 (4)	—	5 (4)	—	0 (0)	—	0 (0)
	障害児教育 障害児教育	—	2 (2)	—	2 (2)	—	1 (1)	2.0	1 (1)
	小 計	10	61 (42)	6.1	61 (42)	6.1	10 (7)	6.1	10 (7)
	合 計	10	61 (42)	—	61 (42)	—	10 (7)	—	10 (7)
学校推薦型選抜合計		51	197 (127)	—	197 (127)	—	51 (39)	—	51 (39)

教育学部 (総合型選抜)

選抜区分	コース等	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (第一次選抜) (c)	通過者数 (第一次選抜) (d)	(c)/(d)	受験者数 (第二次選抜) (e)	合格者数 (第二次選抜) (f)	(e)/(f)	入学者数 (i)
総合型	学校教育教員養成課程	21	60 (39)	2.9	59 (38)	42 (24)	1.4	42 (24)	21(12)	2.0	21 (12)
	合 計	21	60 (39)	—	59 (38)	42 (24)	—	42 (24)	21(12)	—	21 (12)

- 注) 1. 前期日程志願者には、本学が指定する大学入学共通テスト受験科目の不足による出願無資格者1名を含む
2. 後期日程志願者には、本学が指定する大学入学共通テスト受験科目の不足による出願無資格者1名を含む
3. () 内は女子で内数

教育学部 (帰国生徒・社会人)

選抜区分	コース等	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
帰国生徒	学校教育文化	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	学校教育心理実践	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	学校教育 幼児教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	学校教育 国際理解教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	学校教育 環境教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 国語/国語	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 社会/社会	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 算数/数学	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等理科/理科	—	1 (0)	—	1 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 音楽/音楽	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 図画工作/美術	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 体育/保健体育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 情報・技術/情報・技術	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 家庭/家庭	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等英語/英語	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	障害児教育 障害児教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	小 計	若干名	1 (0)	—	1 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	合 計	若干名	1 (0)	—	1 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
社会人	学校教育文化	—	1 (0)	—	1 (0)	—	1 (0)	1.0	1 (0)
	学校教育心理実践	—	1 (0)	—	1 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	学校教育 幼児教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	学校教育 国際理解教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	学校教育 環境教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 国語/国語	—	2 (0)	—	2 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 社会/社会	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 算数/数学	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等理科/理科	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 音楽/音楽	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 図画工作/美術	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 体育/保健体育	—	1 (0)	—	1 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 情報・技術/情報・技術	—	1 (0)	—	1 (0)	—	1 (0)	1.0	1 (0)
	初等教育/中等教育 初等教科 家庭/家庭	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	初等教育/中等教育 初等英語/英語	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	障害児教育 障害児教育	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	小 計	若干名	6 (0)	—	6 (0)	—	2 (0)	—	2 (0)
	合 計	若干名	6 (0)	—	6 (0)	—	2 (0)	—	2 (0)
特別入試合計		72	264 (166)	—	263 (165)	—	74 (51)	—	74 (51)
教育学部 合 計		230	845 (457)	—	647 (353)	—	258 (143)	—	237 (127)

- 注) 1. 前期日程志願者には、本学が指定する大学入学共通テスト受験科目の不足による出願無資格者 1 名を含む
2. 後期日程志願者には、本学が指定する大学入学共通テスト受験科目の不足による出願無資格者 1 名を含む
3. () 内は女子で内数

令和4年度 滋賀大学入学者選抜資料

経済学部（昼間主コース）

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
一般選抜	経 済 学 科	70	390 (87)	—	354 (79)	—	80 (21)	—	68 (18)
	ファイナンス学科	23	48 (9)		44 (9)		27 (10)		23 (9)
	企 業 経 営 学 科	31	189 (66)		173 (59)		36 (18)		33 (15)
	会 計 情 報 学 科	21	77 (22)		68 (20)		24 (14)		21 (12)
	社会システム学科	27	111 (44)		98 (41)		32 (16)		29 (14)
	小 計	172	815 (228)	—	737 (208)	—	199 (79)	—	174 (68)
	選択科目 国語・外国語	86	501 (156)	5.8	450 (142)	5.2	102 (51)	4.4	92 (46)
	選択科目 数学・外国語	86	314 (72)	3.7	287 (66)	3.3	97 (28)	3.0	82 (22)
	経 済 学 科	60	741 (157)	—	302 (64)	—	88 (15)	—	66 (10)
	ファイナンス学科	20	76 (25)		37 (10)		29 (9)		23 (5)
	企 業 経 営 学 科	28	331 (108)		120 (29)		40 (7)		32 (5)
	会 計 情 報 学 科	18	96 (24)		40 (8)		24 (8)		18 (5)
	社会システム学科	24	158 (69)		67 (19)		31 (8)		24 (7)
	小 計	150	1,402 (383)	—	566 (130)	—	212 (47)	—	163 (32)
	選択科目 国語・外国語	75	664 (222)	8.9	317 (79)	4.2	102 (27)	3.1	82 (17)
	選択科目 数学・外国語	75	738 (161)	9.8	249 (51)	3.3	110 (20)	2.3	81 (15)
	一般選抜 合 計	322	2,217 (611)	—	1,303 (338)	—	411 (126)	—	337 (100)

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (一次選考) (c)	合格者数 (一次選考) (d)	(c)/(d)	受験者数 (二次選考) (e)	合格者数 (二次選考) (f)	(e)/(f)	受験者数 (三次選考) (g)	合格者数 (三次選考) (h)	(g)/(h)	入学者数 (i)
特別選抜	経 済 学 科	—	0 (0)	0.0	0 (0)	0 (0)	1.0	0 (0)	0 (0)	1.0	0 (0)	0 (0)	1.0	0 (0)
	ファイナンス学科	—	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)
	企 業 経 営 学 科	—	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)
	会 計 情 報 学 科	—	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)
	社会システム学科	—	1 (0)		1 (0)	1 (0)		1 (0)	1 (0)		1 (0)	1 (0)		1 (0)
	小 計	注2	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	—	1 (0)

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
特別選抜	経 済 学 科	7	2 (0)	0.0	2 (0)	0.0	2 (0)	1.0	2 (0)
	ファイナンス学科	2	1 (0)		1 (0)		1 (0)		1 (0)
	企 業 経 営 学 科	4	4 (2)		4 (2)		4 (2)		4 (2)
	会 計 情 報 学 科	2	2 (0)		2 (0)		2 (0)		2 (0)
	社会システム学科	3	2 (2)		2 (2)		2 (2)		2 (2)
	小 計	18	11 (4)	—	11 (4)	—	11 (4)	—	11 (4)
総合型選抜 合 計		18	12 (4)	—	12 (4)	—	12 (4)	—	12 (4)

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (一次選考) (c)	合格者数 (一次選考) (d)	(c)/(d)	受験者数 (二次選考) (e)	合格者数 (二次選考) (f)	(e)/(f)	入学者数 (g)
特別選抜	推 薦 入 学 A	経 済 学 科	17	23 (5)	2.1	23 (5)	13 (4)	1.0	13 (4)	17 (7)	17 (7)
	推 薦 入 学 B	ファイナンス学科	5	2 (0)		2 (0)	1 (0)		1 (0)	5 (2)	5 (2)
		企 業 経 営 学 科	7	35 (14)		35 (14)	14 (11)		14 (11)	7 (6)	7 (6)
		会 計 情 報 学 科	5	4 (3)		4 (3)	2 (2)		2 (2)	5 (5)	5 (5)
		社会システム学科	6	19 (12)		19 (12)	13 (9)		13 (9)	6 (4)	6 (4)
	推 薦 入 学 B	小 計	40	83 (34)	—	83 (34)	43 (26)	—	43 (26)	40 (24)	40 (24)
		経 済 学 科	8	10 (3)	2.0	10 (3)	6 (3)	1.0	6 (3)	8 (3)	8 (3)
		ファイナンス学科	3	1 (0)		1 (0)	1 (0)		1 (0)	3 (0)	3 (0)
		企 業 経 営 学 科	3	17 (4)		17 (4)	9 (2)		9 (2)	4 (2)	4 (2)
		会 計 情 報 学 科	3	9 (2)		9 (2)	4 (1)		4 (1)	3 (1)	3 (1)
		社会システム学科	3	3 (2)		3 (2)	1 (0)		1 (0)	3 (0)	3 (0)
	推 薦 入 学 B	小 計	20	40 (11)	—	40 (11)	21 (6)	—	21 (6)	21 (6)	21 (6)
		学校推薦型選抜 合 計	60	123 (45)	—	123 (45)	64 (32)	—	64 (32)	61 (30)	61 (30)
	特別選抜 合 計		78	135 (49)	—	135 (49)	76 (36)	—	76 (36)	73 (34)	73 (34)

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
学科別計	経 済 学 科	162	1,166 (252)	—	691 (151)	—	195 (46)	—	161 (38)
	ファイナンス学科	53	128 (34)		85 (19)		65 (21)		55 (16)
	企 業 経 営 学 科	73	576 (194)		349 (108)		91 (35)		80 (30)
	会 計 情 報 学 科	49	188 (51)		123 (33)		58 (28)		49 (23)
	社会システム学科	63	294 (129)		190 (76)		75 (30)		65 (27)
経済学部（昼）合 計		400	2,352 (660)	—	1,438 (387)	—	484 (160)	—	410 (134)

- 注） 1． 志願者数及び受験者数は第1志望による。
2． 総合型選抜の入学定員は課題図書型と資格・検定型をあわせて募集
3． （ ）内は女子で内数

令和4年度 滋賀大学入学者選抜資料

経済学部(夜間主コース)

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (一次選考) (c)	合格者数 (一次選考) (d)	(c)/(d)	受験者数 (二次選考) (e)	合格者数 (二次選考) (f)	(e)/(f)	入学者数 (g)
特別 総合型・一種	経済学科	—	0 (0)	0.0	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)
	ファイナンス学科	—	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)
	企業経営学科	—	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)
	会計情報学科	—	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)
	社会システム学科	—	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)		0 (0)
	小計	10	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	—	0 (0)
選抜 総合型・二種	経済学科	—	15 (4)	1.9	15 (4)	15 (4)	1.1	15 (4)	11 (2)	1.3	7 (1)
	ファイナンス学科	—	5 (2)		5 (2)	4 (2)		4 (2)	9 (2)		6 (0)
	企業経営学科	—	29 (6)		29 (6)	25 (6)		25 (6)	10 (4)		9 (3)
	会計情報学科	—	11 (4)		11 (4)	10 (3)		10 (3)	9 (4)		9 (4)
	社会システム学科	—	15 (8)		15 (8)	13 (7)		13 (7)	11 (5)		10 (4)
	小計	40	75 (24)	—	75 (24)	67 (22)	—	67 (22)	50 (17)	—	41 (12)
	総合型選抜合計	50	75 (24)	—	75 (24)	67 (22)	—	67 (22)	50 (17)	—	41 (12)

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
特別 第二次特別・一種	経済学科	—	2 (1)	—	2 (1)	—	1 (0)	—	1 (0)
	ファイナンス学科	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
	企業経営学科	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
	会計情報学科	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
	社会システム学科	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
	小計	—	2 (1)	—	2 (1)	—	1 (0)	—	1 (0)
選抜 第二次特別・二種	経済学科	—	7 (1)	—	6 (1)	—	4 (1)	—	3 (0)
	ファイナンス学科	—	2 (0)		2 (0)		0 (0)		0 (0)
	企業経営学科	—	5 (2)		3 (1)		1 (1)		1 (1)
	会計情報学科	—	3 (0)		3 (0)		2 (0)		2 (0)
	社会システム学科	—	5 (0)		4 (0)		1 (0)		0 (0)
	小計	—	22 (3)	—	18 (2)	—	8 (2)	—	6 (1)
第二次特別選抜合計		10	24 (4)	—	20 (3)	—	9 (2)	—	7 (1)

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
学科別計	経済学科	11	24 (6)	—	23 (6)	—	16 (3)	—	11 (1)
	ファイナンス学科	9	7 (2)		7 (2)		9 (2)		6 (0)
	企業経営学科	10	34 (8)		32 (7)		11 (5)		10 (4)
	会計情報学科	9	14 (4)		14 (4)		11 (4)		11 (4)
	社会システム学科	11	20 (8)		19 (8)		12 (5)		10 (4)
経済学部(夜)合計		50	99 (28)	—	95 (27)	—	59 (19)	—	48 (13)

注) 1. 志願者数及び受験者数は第1志望による。

2. () 内は女子で内数

令和４年度 滋賀大学入学者選抜資料

データサイエンス学部

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
一般選抜	前期日程 データサイエンス学科	50	171 (28)	3.4	160 (26)	3.2	80 (12)	2.0	73 (11)
	小 計	50	171 (28)	—	160 (26)	—	80 (12)	—	73 (11)
	後期日程 データサイエンス学科	20	136 (20)	6.8	61 (9)	3.1	25 (2)	2.4	20 (2)
	小 計	20	136 (20)	—	61 (9)	—	25 (2)	—	20 (2)
	一般選抜 合 計	70	307 (48)	—	221 (35)	—	105 (14)	—	93 (13)

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (一次選考) (c)	合格者数 (一次選考) (d)	(c)/(d)	受験者数 (二次選考) (e)	合格者数 (二次選考) (f)	(e)/(f)	受験者数 (三次選考) (g)	合格者数 (三次選考) (h)	(g)/(h)	入学者数 (i)
特別選抜	総合型Ⅰ データサイエンス学科	15	40 (8)	2.7	40 (8)	27 (7)	1.5	27 (7)	27 (7)	1.0	27 (7)	8 (3)	3.4	8 (3)
	小 計	15	40 (8)	—	40 (8)	27 (7)	—	27 (7)	27 (7)	—	27 (7)	8 (3)	—	8 (3)
	総合型Ⅱ データサイエンス学科	15	24 (8)	1.6	24 (8)	18 (7)	1.3	18 (7)	18 (7)	1.0	18 (7)	3 (1)	6.0	3 (1)
	小 計	15	24 (8)	—	24 (8)	18 (7)	—	18 (7)	18 (7)	—	18 (7)	3 (1)	—	3 (1)
	総合型Ⅲ データサイエンス学科	—	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)
	小 計	若干名	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	—	0 (0)
	特別選抜 合 計	30	64 (16)	—	64 (16)	45 (14)	—	45 (14)	45 (14)	—	45 (14)	11 (4)	—	11 (4)

入試 区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
データサイエンス学部 合 計		100	371 (64)	—	285 (51)	—	116 (18)	—	104 (17)

注) 1. ()は女子で内数

令和4年度 滋賀大学入学者選抜資料（合格者の試験成績）

教育学部

入試 区分	課程・コース等		総 合 得 点				大学入学共通テスト傾斜済合計得点			
			配点合計	平均点	最高点	最低点	配点合計	平均点	最高点	最低点
前 期 日 程	学校教育教員養成課程	文系型	1,300	774.8	896.0	725.0	900	549.9	634.0	494.0
		理系型	1,300	754.4	899.0	691.0	900	523.0	570.0	462.0
		面接	1,300	—	—	—	900	—	—	—
		音楽	1,300	759.2	—	—	800	390.4	—	—
		美術	1,300	735.0	—	—	800	388.0	—	—
		体育	1,300	762.6	—	—	900	510.4	—	—
後期日程	学校教育教員養成課程		1,100	675.5	806.0	616.0	900	547.8	657.0	491.0
一 般 推 薦	学校教育教員養成課程	初等教育 A教育文化	200	155.3	—	—				
		初等教育 A教育心理実践	200	—	—	—				
		初等教育 A幼児教育	200	163.7	—	—				
		初等教育 A国際理解教育	200	—	—	—				
		初等教育 A環境教育	200	150.3	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 国語/国語	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 社会/社会	200	144.0	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 算数/数学	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等 理科/理科	200	145.7	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 音楽/音楽	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 図画工作/美術	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 体育/保健体育	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 情報・技術/情報・技術	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 B初等教科 情報・技術/情報・技術	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等教科 家庭/家庭	200	156.7	—	—				
		初等教育/中等教育 A初等 英語/英語	200	158.3	—	—				
		障害児教育 A障害児教育	200	157.3	—	—				
地域推薦	学校教育教員養成課程		200	147.2	—	—				
総合型	学校教育教員養成課程		800	631.7	758.0	504.0				
備国生徒	学校教育教員養成課程	初等教育/中等教育 初等理科/理科	200	—	—	—				
社 会 人	学校教育教員養成課程	初等教育 教育文化	200	—	—	—				
		初等教育 教育心理実践	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 初等教科 国語/国語	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 初等教科 体育/保健体育	200	—	—	—				
		初等教育/中等教育 初等教科 情報・技術/情報・技術	200	—	—	—				
保護者・関係者等	学校教育教員養成課程		650	498.7	—	—				

注) 1. 募集単位の合格者が3人未満の場合は試験成績(最高点、最低点、平均点)は情報開示しません。
2. 募集単位の合格者が3人以上10人以下の場合は試験成績のうち最高点、最低点は情報開示しません。
3. 前期日程および後期日程の合格者の試験成績に、特別追試験合格者の試験成績は含まれていません。

令和4年度 滋賀大学入学者選抜資料(合格者の試験成績)

経済学部(昼間主コース)

入 試 区 分			総 合 得 点				大学入学共通テスト傾斜済合計得点			
			配点合計	平均点	最高点	最低点	配点合計	平均点	最高点	最低点
前期日程	国語・外国語型	A方式	900	610.6	698	586	500	390.6	439	344
		B方式	1,300	819.8	922	791	900	608.2	654	561
	数学・外国語型	A方式	900	597.8	711	561	500	358.7	422	310
		B方式	1,300	818.8	881	780	900	595.7	638	561
後期日程	国語・外国語型	A方式	1,500	1,004.2	1,119	929	500	364.3	419	303
		B方式	1,900	1,208.3	1,362	1,099	900	608.2	714	532
	数学・外国語型	A方式	1,500	922.5	1,164	813	500	360.2	426	253
		B方式	1,900	1,159.2	1,414	1,023	900	620.1	709	499
学校推薦型選抜 注3参照	A推薦		300	210.5	252	194				
	B推薦		300	199.1	233	176				
総合型選抜 注3参照	課題図書型		300	—	—	—				
	資格・検定型		300	207.7	236	187				
私費外国人留学生			1,720	1,242.4	1,351	1,149				
3年次編入学試験 注3参照			500	343.3	388	317				

経済学部(夜間主コース)

入 試 区 分		総 合 得 点			
		配点合計	平均点	最高点	最低点
総合型選抜 注3参照	1種	600	—	—	—
	2種	600	346.3	498	270
第二次特別選抜	1種	600	—	—	—
	2種	600	322.5	—	—

データサイエンス学部

入 試 区 分		総 合 得 点				大学入学共通テスト傾斜済合計得点			
		配点合計	平均点	最高点	最低点	配点合計	平均点	最高点	最低点
前期日程		1,300	829.5	958	761	900	592.5	680	490
後期日程		1,500	1,074.2	1,143	1,019	900	630.4	672	584
総合型選抜Ⅰ		230	135.7	173	117				
総合型選抜Ⅱ		230	156.9	185	143				
総合型選抜Ⅲ		130	—	—	—				

- 注) 1.募集単位の合格者数が3人未満の場合は試験成績(最高点, 最低点, 平均点)は情報開示しません。
2.募集単位の合格者数が3人以上10人以下の場合は試験成績のうち最高点, 最低点は情報開示しません。
3.学校推薦型選抜・総合型選抜(資格・検定型を除く)・3年次編入学試験は第一次選考合格者の試験成績です。

入学者選抜に関する問い合わせ先

担 当 係（窓口）	所 在 地	電 話 番 号
入 試 課 入 学 試 験 係	〒522-8522 彦根市馬場一丁目1番1号	0 7 4 9 （ 2 7 ） 1 0 2 3
教 育 学 部 入 学 試 験 係	〒520-0862 大津市平津二丁目5番1号	0 7 7 （ 5 3 7 ） 7 7 1 1

なお、問い合わせは祝日等を除く月曜日から金曜日までの各日9時～17時まで（12時から13時を除く）の間をお願いします。

入 試 情 報 サ ー ビ ス

滋賀大学では、入試に関する情報を提供しています。

入試情報ホームページ <https://www.shiga-u.ac.jp/admission/>

携帯電話サイト <https://daigakuic.jp/shiga-u/>

QRコード®
※対応するスマートフォン、
携帯電話で読み取れます。



提供する入試情報の主な内容及び時期（予定）は次のとおりです。

7月中旬～	1月下旬	入学者選抜の概要，学生募集要項及び大学案内の請求方法
9月初旬～	2月上旬	学校推薦型選抜，総合型選抜，帰国生徒選抜， 社会人選抜，私費外国人留学生選抜の出願状況及び合格速報
1月下旬～	2月上旬	一般選抜出願状況
2月中旬～	3月下旬	一般選抜の実施と合格速報
3月28日～	3月31日	追加合格実施の有無について